

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2019年2月28日提出
【発行者名】	ファイブスター投信投資顧問株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 中芝 幸一
【本店の所在の場所】	東京都中央区入船一丁目2番9号 八丁堀MFビル8階
【事務連絡者氏名】	河村 誠
【電話番号】	03-3523-9556
【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券に係るファンドの名称】	ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・安定型 ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・バランス型 ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・積極型
【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券の金額】	ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・安定型 5,000億円を上限とします。 ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・バランス型 5,000億円を上限とします。 ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・積極型 5,000億円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

## 第一部【証券情報】

### （１）【ファンドの名称】

ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・安定型（愛称：「ゼニガメ」）

ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・バランス型（愛称：「ウミガメ」）

ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・積極型（愛称：「ミノガメ」）

- ・上記を総称して「ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・シリーズ」、「当ファンド」または「当ファンド・シリーズ」ということがあります。
- ・以下「各ファンド」もしくは「安定型」、「バランス型」、「積極型」という場合、上記それぞれのファンドを指しているものとします。

### （２）【内国投資信託受益証券の形態等】

- ・追加型証券投資信託受益権です。（以下「受益権」といいます。）
- ・信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付、または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。  
ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社債、株式等の振替に関する法律第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社は、やむを得ない事情などがある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

### （３）【発行（売出）価額の総額】

各ファンド毎に、5,000億円を上限とします。

### （４）【発行（売出）価格】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

- ・基準価額につきましては、販売会社または「（８）申込取扱場所」の照会先にお問い合わせください。

### （５）【申込手数料】

販売会社が定めるものとします。申込手数料率につきましては、販売会社または「（８）申込取扱場所」の照会先にお問い合わせください。

- ・販売会社における申込手数料率は3.24%（税抜3%）が上限となっております。

### （６）【申込単位】

販売会社または「（８）申込取扱場所」の照会先にお問い合わせください。

### （７）【申込期間】

2019年3月1日から2019年8月30日までとします。

- ・上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

## ( 8 ) 【申込取扱場所】

販売会社につきましては、委託会社の照会先にお問い合わせください。

委託会社の照会先

<ファイブスター投信投資顧問株式会社 お客様デスク>

電話 番 号：03 - 3553 - 8711

受 付 時 間：委託会社の営業日の午前9時～午後5時まで

ホームページアドレス：<http://www.fivestar-am.co.jp/>

## ( 9 ) 【払込期日】

- ・取得申込者は、申込金額を販売会社が指定する期日までに販売会社に支払うものとします。
- ・申込期間における各取得申込受付日の発行価額の総額（設定総額）は、販売会社によって、追加設定が行なわれる日に委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

## ( 10 ) 【払込取扱場所】

申込金額は、販売会社にお支払いいただきます。

## ( 11 ) 【振替機関に関する事項】

振替機関は、株式会社証券保管振替機構とします。

## ( 12 ) 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1【ファンドの性格】

##### (1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

信託財産の長期成長を目的とします。

当ファンド・シリーズは、ご投資家の皆様の投資目的や投資可能期間に応じて、以下の3つのファンドから選択することができます。

- ・ユニテッド・タートルクラブ・ファンド・安定型（愛称：ゼニガメ）
- ・ユニテッド・タートルクラブ・ファンド・バランス型（愛称：ウミガメ）
- ・ユニテッド・タートルクラブ・ファンド・積極型（愛称：ミノガメ）

ファンドの基本的性格

<ユニテッド・タートルクラブ・ファンド・安定型>

##### 1) 商品分類

単位型投信・追加型投信	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株式 債券
	海外	不動産投信
追加型投信	内外	その他資産 ( )
		資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

## 2) 属性区分

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ		
株式 一般	年1回	グローバル (含む日本)	ファミリーファンド	あり		
大型株 中小型株	年2回	日本				
債券 一般	年4回	北米				
公債	年6回 (隔月)	欧州				
社債	年12回 (毎月)	アジア				
その他債券 クレジット属性 ( )	日々	オセアニア				
不動産投信	その他 ( )	中南米			ファンド・オブ・ ファンズ	なし
その他資産 (投資信託証券(株 式))		アフリカ				
資産複合 ( )		中近東 (中東)				
資産配分固定型 資産配分変更型		エマージング				

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」欄は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズです。このため、組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産（その他資産（投資信託証券））と収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産（資産複合）とが異なります。

## &lt;ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・バランス型&gt;

## 1) 商品分類

単位型投信・ 追加型投信	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株式
	海外	債券
追加型投信		不動産投信
	内外	その他資産 ( )
		資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

## 2) 属性区分

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ		
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル (含む日本)	ファミリーファンド	あり		
	年2回	日本				
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	年4回	北米				
	年6回 (隔月)	欧州				
	年12回 (毎月)	アジア				
		オセアニア				
不動産投信	日々	中南米			ファンド・オブ・ ファンズ	なし
その他資産 (投資信託証券)	その他 ( )	アフリカ				
資産複合 ( ) 資産配分固定型 資産配分変更型		中近東 (中東)				
		エマージング				

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」欄は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズです。このため、組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産（その他資産（投資信託証券））と収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産（資産複合）とが異なります。

## &lt;ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・積極型&gt;

## 1) 商品分類

単位型投信・ 追加型投信	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株 式
	海外	債 券
追加型投信	内 外	不動産投信
		その他資産 ( )
		資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

## 2) 属性区分



投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ		
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル (含む日本)	ファミリーファンド	あり		
	年2回	日本				
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	年4回	北米				
	年6回 (隔月)	欧州				
	年12回 (毎月)	アジア				
	日々	オセアニア				
不動産投信	日々	中南米			ファンド・オブ・ ファンズ	なし
その他資産 (投資信託証券(株 式))	その他 ( )	アフリカ				
資産複合 ( ) 資産配分固定型 資産配分変更型		中近東 (中東)				
		エマージング				

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」欄は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズです。このため、組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産（その他資産（投資信託証券（株式）））と収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産（株式）とが異なります。

## &lt; 商品分類の定義 &gt;

## 1. 単位型投信・追加型投信の区分

- (1) 単位型投信：当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいう。
- (2) 追加型投信：一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。

## 2. 投資対象地域による区分

- (1) 国内：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 海外：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 内外：目論見書又は投資信託約款において、国内及び海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

## 3. 投資対象資産による区分

- (1) 株式：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 債券：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 不動産投信（リート）：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券及び不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (4) その他資産：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に上記(1)から(3)に掲げる資産以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、その他資産と併記して具体的な収益の源泉となる資産の名称記載も可とする。
- (5) 資産複合：目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(4)に掲げる資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

## 4. 独立した区分

- (1) MMF（マネー・マネージメント・ファンド）：「MMF等の運営に関する規則」に定めるMMFをいう。
- (2) MRF（マネー・リザーブ・ファンド）：「MMF等の運営に関する規則」に定めるMRFをいう。
- (3) ETF：投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成12年政令480号）第12条第1号及び第2号に規定する証券投資信託並びに租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいう。

## &lt; 補足として使用する商品分類 &gt;

- (1) インデックス型：目論見書又は投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2) 特殊型：目論見書又は投資信託約款において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。なお、下記の属性区分で特殊型の小分類において「条件付運用型」に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記するものとし、それ以外の小分類に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記できるものとする。

## &lt; 属性区分の定義 &gt;

## 1. 投資対象資産による属性区分

## (1) 株式

一般：次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいう。

大型株：目論見書又は投資信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいう。

中小型株：目論見書又は投資信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいう。

## (2) 債券

一般：次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいう。

公債：目論見書又は投資信託約款において、日本国又は各国の政府の発行する国債(地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含む。以下同じ。)に主として投資する旨の記載があるものをいう。

社債：目論見書又は投資信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいう。

その他債券：目論見書又は投資信託約款において、公債又は社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいう。

格付等クレジットによる属性：目論見書又は投資信託約款において、上記 から の「発行体」による区分のほか、特にクレジットに対して明確な記載があるものについては、上記 から に掲げる区分に加え「高格付債」「低格付債」等を併記することも可とする。

## (3) 不動産投信

これ以上の詳細な分類は行わないものとする。

(4)その他資産

組入れている資産を記載するものとする。

(5)資産複合

以下の小分類に該当する場合には当該小分類を併記することができる。

資産配分固定型：目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

資産配分変更型：目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行なう旨の記載があるものもしくは固定的とする旨の記載がないものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

2. 決算頻度による属性区分

年1回：目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。

年2回：目論見書又は投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいう。

年4回：目論見書又は投資信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいう。

年6回(隔月)：目論見書又は投資信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいう。

年12回(毎月)：目論見書又は投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいう。

日々：目論見書又は投資信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいう。

その他：上記属性にあてはまらない全てのものをいう。

3. 投資対象地域による属性区分(重複使用可能)

グローバル：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、「世界の資産」の中に「日本」を含むか含まないかを明確に記載するものとする。

日本：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

北米：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

欧州：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

アジア：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

オセアニア：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

中南米：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

アフリカ：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

中近東(中東)：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

エマージング：目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域(新興成長国(地域))の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

4. 投資形態による属性区分

ファミリーファンド：目論見書又は投資信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。)を投資対象として投資するものをいう。

ファンド・オブ・ファンズ：「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいう。

5. 為替ヘッジによる属性区分

為替ヘッジあり：目論見書又は投資信託約款において、為替のフルヘッジ又は一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいう。

為替ヘッジなし：目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

6. インデックスファンドにおける対象インデックスによる属性区分

日経225

TOPIX

その他の指数：前記指数にあてはまらない全てのものをいう。

7. 特殊型

ブル・ベア型：目論見書又は投資信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動若しくは逆連動(一定倍の連動若しくは逆連動を含む。)を目指す旨の記載があるものをいう。

条件付運用型：目論見書又は投資信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果(基準価額、償還価額、収益分配金等)や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいう。

ロング・ショート型/絶対収益追求型：目論見書又は投資信託約款において、特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨若しくはロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨の記載があるものをいう。






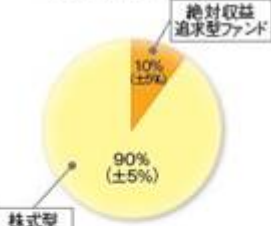
その他型：目論見書又は投資信託約款において、上記 から に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。

上記は、一般社団法人投資信託協会が定める分類方法に基づき記載しています。また、商品分類および属性区分の定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。なお、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<http://www.toushin.or.jp/>) でもご覧頂けます。

## ファンドの特色

日本を含む世界各国の株式、債券および為替取引等ならびにこれらに関連する派生商品（先物取引およびオプション取引等）を実質的な主要投資対象\*とし、積極的に分散投資を行います。

\*「実質的な主要投資対象」とは、投資信託証券を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。

名 称	ユナイテッド・タートルクラブ・ ファンド・安定型 (愛称:ゼニガメ) 	ユナイテッド・タートルクラブ・ ファンド・バランス型 (愛称:ウミガメ) 	ユナイテッド・タートルクラブ・ ファンド・積極型 (愛称:ミノガメ) 
指定投資 信託証券※ への 投資配分	<b>債券型ファンド</b> 信託財産の純資産総額の概ね 50% (±10%)  <b>絶対収益追求型ファンド</b> 信託財産の純資産総額の概ね 50% (±10%)	<b>債券型ファンド</b> 信託財産の純資産総額の概ね 30% (±10%)  <b>株式型ファンド</b> 信託財産の純資産総額の概ね 50% (±10%)  <b>絶対収益追求型ファンド</b> 信託財産の純資産総額の概ね 20% (±10%)	<b>株式型ファンド</b> 信託財産の純資産総額の概ね 90% (±5%)  <b>絶対収益追求型ファンド</b> 信託財産の純資産総額の概ね 10% (±5%)
	<投資分配のイメージ> 	<投資分配のイメージ> 	<投資分配のイメージ> 

(注) 市場動向および資金動向などにより、上記のような運用ができない場合があります。

※ 約款に定められた当ファンド・シリーズが投資対象とする投資信託証券をいいます。

原則として、外貨建資産の為替ヘッジは行いません。

実質的に投資する外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。したがって、各ファンドの基準価額および分配金は円と米ドルの為替相場の変動の影響を受けます。

## &lt;指定投資信託証券分類の定義&gt;

債券型ファンド	組入資産による主たる収益が実質的に債券を源泉とするファンドをいいます。
株式型ファンド	組入資産による主たる収益が実質的に株式を源泉とするファンドをいいます。
絶対収益追求型ファンド	特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す、もしくは、ロング・ショート戦略により収益の追求を目指すファンドをいいます。

※上記定義は、一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を参考に、委託会社が定義したものです。

**■ 主な投資制限**

- 投資信託証券（外貨建の投資信託証券も含まれます。）への投資割合には制限を設けません。
- 株式への直接投資は行いません。
- デリバティブ取引の直接利用は行いません。
- 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

**■ 分配方針**

年1回（毎年5月31日（休業日の場合は翌営業日））に決算を行い、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。

- 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- 分配金額は、委託者が基準価額水準・市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないこともあります。
- 収益分配に充てず信託財産内に留保した利益について、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づき、運用を行います。

※将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。

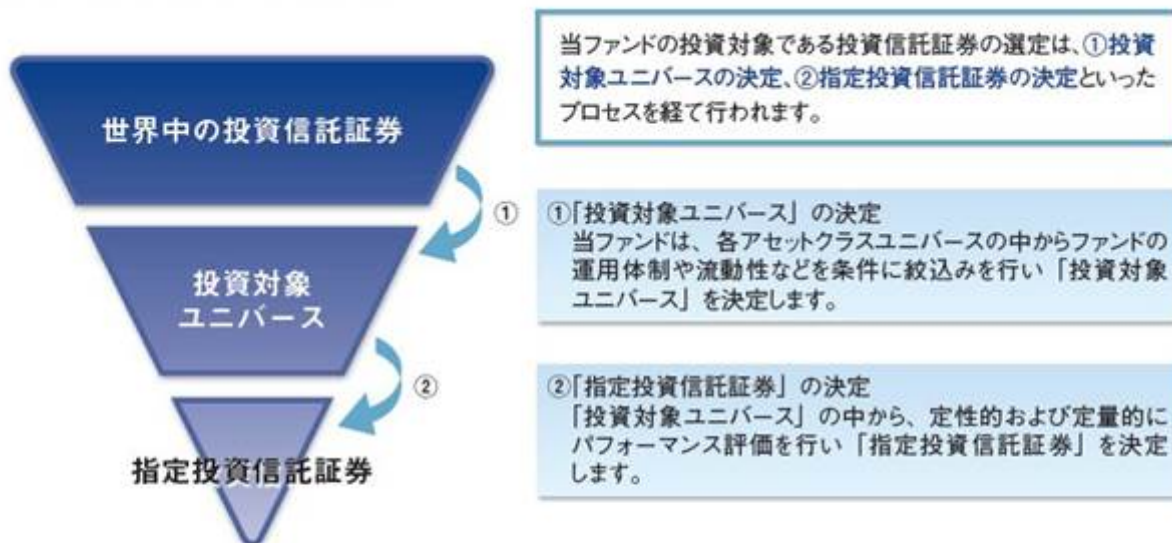
## <参考> 指定投資信託証券について

各ファンドの約款に定める指定投資信託証券は、以下の通りです。

分類	指定投資信託証券の名称
債券型ファンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ユナイテッド日本債券ベビーファンド（適格機関投資家向け）</li> <li>● iシェアーズ・コア 米国総合債券市場 ETF</li> <li>● iシェアーズ 世界国債（除く米国）ETF</li> <li>● iシェアーズ・フローティングレート・ボンド ETF</li> </ul>
株式型ファンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>● TOPIX 連動型上場投資信託</li> <li>● iシェアーズ MSCI ワールド UCITS ETF</li> </ul>
絶対収益追求型 ファンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>● シングルアルファ・ファンド（適格機関投資家私募）</li> </ul>

※上記は、有価証券届出書提出日現在のものであります。指定投資信託証券は、定性評価、定量評価等を勘案して適宜見直しが行われます。その際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券が指定から外れたり、新たな投資信託証券（新たに設定される投資信託証券も含まれます。）が指定されたりする場合があります。なお、指定投資信託証券は、必ず組入れられるとは限りません。

## ● 指定投資信託証券の選定方法



※上図は、あくまでも例示をもって理解を深めていただくためのイメージです。

- ・ 定性評価においては、投資信託証券の過去の実績（Performance）、マネージャの経歴（People）、運用哲学（Philosophy）、ベンチマーク比較（Peer Comparison）、実際のポートフォリオの整合性（Portfolio）の5Pを総合的に評価します。
- ・ 定量評価においては、特に、1リスク当りのリターン、最大ドローダウン等に注目して、ファンドのパフォーマンスを評価します。

## 信託金限度額

- ・ 各ファンド毎に、5,000億円を限度として信託金を追加することができます。
- ・ 委託会社は受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

## (2) 【ファンドの沿革】

2001年6月1日

- ・ ファンドの信託契約締結、運用開始

2005年10月31日

- ・ ファンド名称を「UAMタートルクラブ・ファンド・安定型（愛称：ゼニガメ）」、「UAMタートルクラブ・ファンド・バランス型（愛称：ウミガメ）」、「UAMタートルクラブ・ファンド・積極型（愛称：ミノガメ）」からそれぞれ「ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・安定型（愛称：ゼニガメ）」、「ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・バランス型（愛称：ウミガメ）」、「ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・積極型（愛称：ミノガメ）」に変更

2006年9月12日

- ・ 投資対象に「アカディアン欧州株式マーケット・ニュートラル（適格機関投資家向け）」を、組入れ投資信託証券に「ユナイテッド日本株式マザーファンド」を追加



2009年6月12日

- ・投資対象の変更、一部解約の支払い開始日の変更、追加設定および一部解約（換金）にかかる受付中止日の変更、信託報酬率の変更

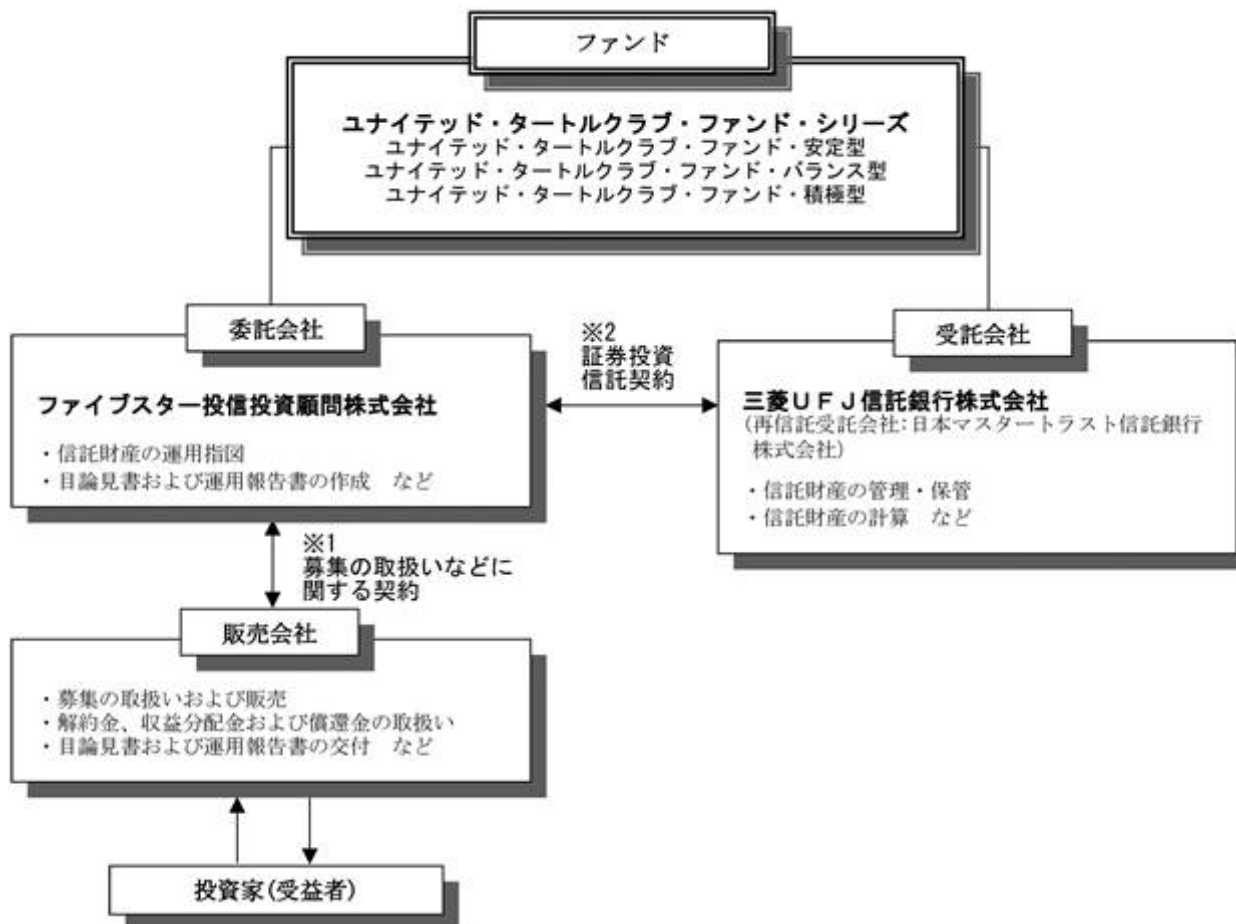
2018年1月22日

- ・ファンドの委託会社変更（日本アジア・アセット・マネジメント株式会社 からファイブスター投信投資顧問株式会社へ変更）を実施

2018年10月1日付けで商号が日本アジア・アセット・マネジメント株式会社からあいグローバル・アセット・マネジメント株式会社に変更となりました。

## (3) 【ファンドの仕組み】

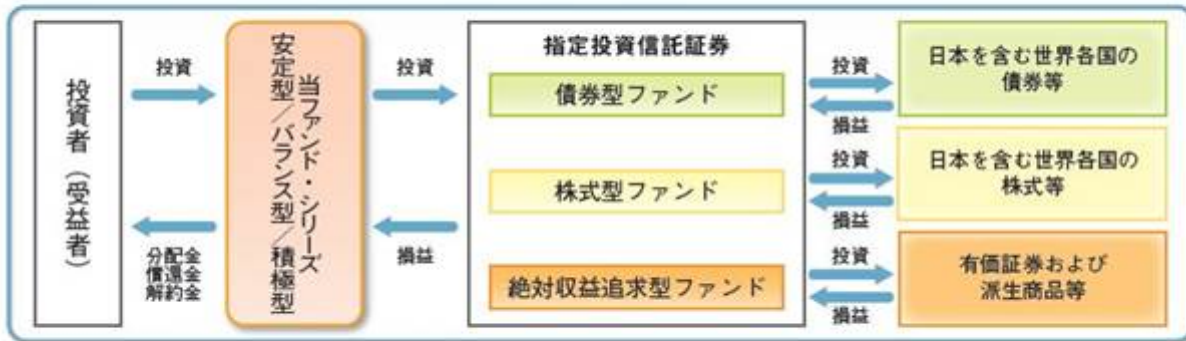
## ファンドの仕組み



- 1 投資信託を販売するルールを委託会社と販売会社の間で規定したものです。販売会社が行なう募集の取扱い、収益分配金・償還金の支払い、解約請求の受付の業務範囲の取決めの内容などが含まれています。
- 2 投資信託を運営するルールを委託会社と受託会社の間で規定したものです。運用の基本方針、投資対象、投資制限、信託報酬、受益者の権利、募集方法の取決めの内容などが含まれています。

## &lt;ファンド・オブ・ファンズの仕組み&gt;

- 当ファンド・シリーズの各ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。
- ファンド・オブ・ファンズ方式とは、ファンドの信託財産を主に他のファンドに投資する仕組みで、一般社団法人投資信託協会の定める商品分類において、「主として投資信託証券に投資するもの」をいいます。



投資信託証券への投資にあたっては、約款に定める「指定投資信託証券<sup>\*</sup>」の中から選択した投資信託証券に分散投資を行います。指定投資信託証券は、適宜（原則として、半年毎）見直しを行います。

<sup>\*</sup>詳しくは、後述の「投資対象とする投資信託証券の概要」をご覧ください。

委託会社の概況（2018年12月末現在）

1) 資本金

2億1,175万円

2) 沿革

2009年4月1日： 株式会社ファイブスター投資顧問を設立（資本金100万円）  
 2009年6月24日： 増資の実施（新資本金5,000万円）  
 2009年10月20日： 金融商品取引業登録 関東財務局長（金商）第2266号  
 2013年4月25日： 増資の実施（新資本金2億675万円）  
 2013年8月8日： ファイブスター投信投資顧問株式会社に商号変更  
 2014年8月29日： 増資の実施（新資本金2億1,175万円）

3) 大株主の状況

名 称	住 所	所有株数	所有比率
ユニコムホールディングス株式会社	東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11	1,000株	17.30%
株式会社あかつき本社	東京都中央区日本橋小舟町8番1号 ヒューリック小舟町ビル9階	550株	9.52%

## 2 【投資方針】

### (1) 【投資方針】

投資信託証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の株式、債券および為替取引等ならびにこれらに関連する派生商品（先物取引およびオプション取引等）に積極的に分散投資を行なうことにより、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

投資信託証券への投資にあたっては、市場環境の変化に応じて、別に定める投資信託証券（以下「指定投資信託証券」といいます。）の中から選択した投資信託証券に分散投資を行なうことを基本とします。また、組入れ投資信託証券については適宜見直しを行ないます。

指定投資信託証券は、その収益の源泉の違いにより、「債券型ファンド」、「株式型ファンド」および「絶対収益追求型ファンド」に分類されます。

（指定投資信託証券の分類の定義）

債券型ファンド	組入資産による主たる収益が実質的に債券を源泉とするファンドをいいます。
株式型ファンド	組入資産による主たる収益が実質的に株式を源泉とするファンドをいいます。
絶対収益追求型ファンド	特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す、もしくは、ロング・ショート戦略により収益の追求を目指すファンドをいいます。

上記定義は、一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を参考に、委託会社が定義したものです。

## &lt;参考&gt; 各ファンドにおける投資する指定投資信託証券の投資配分比率

	投資する指定投資信託証券の分類	投資配分比率
安定型	債券型ファンド	50%（±10%）
	絶対収益追求型ファンド	50%（±10%）
バランス型	債券型ファンド	30%（±10%）
	株式型ファンド	50%（±10%）
	絶対収益追求型ファンド	20%（±10%）
積極型	株式型ファンド	90%（±5%）
	絶対収益追求型ファンド	10%（±5%）

各ファンドの信託財産の純資産総額に対して、概ね上記投資配分比率にて投資を行います。

指定投資信託証券は、定性評価、定量評価等を勘案して適宜見直しを行いません。この際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券が指定から外れたり、新たに主として有価証券に投資する投資信託証券（新たに設定される投資信託（投資法人を含みます。）も含みます。）が指定投資信託証券として指定されたりする場合があります。

投資信託証券への投資は、高位を維持することを基本とします。

市場動向、資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## （２）【投資対象】

この投資信託は、主として有価証券に投資する投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。以下同じ。）を主要投資対象とします。

## 投資の対象とする資産の種類

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- １．次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第２条第１項で定めるものをいいます。以下同じ。）
  - イ．有価証券
  - ロ．約束手形
  - ハ．金銭債権
- ２．次に掲げる特定資産以外の資産
  - イ．為替手形

## 有価証券および金融商品の指図範囲等

委託者は、信託金を、主として別に定める投資信託証券（以下、「指定投資信託証券」といいます。）のほか、次の有価証券（金融商品取引法第２条第２項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

- １．国債証券
- ２．地方債証券
- ３．特別の法律により法人の発行する債券
- ４．社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券および短期社債券を除きます。）
- ５．コマーシャル・ペーパーおよび短期社債券
- ６．外国または外国の者の発行する証券または証書で、前号の証券または証書の性質を有するもの
- ７．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りません。）

なお、第１号から第４号の証券を以下「公社債」といい、公社債にかかる運用の指図は買い現先取引（売戻し条件付の買入れ）および債券貸借取引（現金担保付き債券借入れ）に限り行なうことができるものとします。

委託者は、信託金を、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第２条第２項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することの指図ができます。

- 1．預金
- 2．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- 3．コール・ローン
- 4．手形割引市場において売買される手形

## 投資対象とする投資信託証券の概要

## &lt;債券型ファンド&gt;

ファンド名	ユナイテッド日本債券ベビーファンド（適格機関投資家向け）
主要投資対象	ユナイテッド日本債券マザーファンド
投資方針・特色	①信託財産の長期成長を目指して、積極的な運用を行います。 ②マザーファンドへの投資を通じて、主として、わが国の債券へ投資を行います。 ③わが国のファンダメンタルズ、金利動向などの分析・評価に基づき、デュレーションをアクティブに変更し、収益の獲得を目指します。 ④A A格以上の格付けを有する債券を中心に投資適格債券に投資し、信用リスクの低減を図ります。 ⑤市場動向や資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
信託報酬	信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.216%（税抜年0.20%）の率を乗じて得た額とします。
委託会社	あいグローバル・アセット・マネジメント株式会社* *2018年10月1日付けで商号が日本アジア・アセット・マネジメント株式会社からあいグローバル・アセット・マネジメント株式会社に変更となりました。

ファンド名	iシェアーズ・コア 米国総合債券市場ETF（英文名：iShares Core U.S. Aggregate Bond ETF）
投資方針・特色	バークレイズ米国総合インデックス※と同等水準の投資成果を目指します。 ※米国投資適格債券市場全体のパフォーマンスを測る指標で、米国内で公募販売が行われている投資適格の米国国債、投資適格社債、モーゲージ・パススルー証券およびアセット・バック証券等が含まれます。
管理会社	ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ
主たる上場取引所	NYSE アーカ取引所（米国）
管理報酬	年率0.05%
当初設定日	2003年9月22日

ファンド名	iシェアーズ 世界国債（除く米国）ETF（英文名：iShares International Treasury Bond ETF）
投資方針・特色	S&P シティグループ・インターナショナル・トレジャリー・ボンド・インデックス（除く米国）※と同等水準の投資成果を目指します。 ※米国のS&P、シティグループが共同組成した指数で、米国以外の先進国が現地通貨建てで発行する国債のパフォーマンスを測る指数です。
管理会社	ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ
主たる上場取引所	ナスダック証券取引所（米国）
管理報酬	年率0.35%
当初設定日	2009年1月21日

ファンド名	iシェアーズ・フローティングレート・ボンドETF（英文名：iShares Floating Rate Bond ETF）
投資方針・特色	ブルームバーグ・バークレイズ米国変動利付債5年未満指数※に連動する投資成果を目指します。 ※投資適格、変動金利の社債および政府関連部門の債券のパフォーマンスを測定する米国変動金利債（FRN）指数の一部です。
管理会社	ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ
主たる上場取引所	シカゴオプション取引所
管理報酬	年率0.20%
当初設定日	2011年6月17日

※ナスダック＝全米証券業協会（ナスダ）自動株相場であり、取引所の場所を示すものではありません。

※上記は、有価証券届出書提出日現在のものです。指定投資信託証券は、定性評価、定量評価等を勘案して適宜見直しが行われます。その際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券が指定から外れたり、新たな投資信託証券（新たに設定される投資信託証券も含まれます。）が指定されたりする場合があります。なお、指定投資信託証券は、必ず組入れられるとは限りません。

## &lt;株式型ファンド&gt;

ファンド名	TOPIX 連動型上場投資信託
投資方針・特色	TOPIX（東証株価指数）※との連動を目指すETF（上場投資信託）です。 ※東京証券取引所第一部に上場する内国株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。東京証券取引所が算出・公表しています。
管理会社	野村アセットマネジメント株式会社
主たる上場取引所	東京証券取引所
信託報酬等	0.1188%（税抜 年率0.11%）
当初設定日	2001年7月11日
ファンド名	iシェアーズ MSCI ワールド UCITS ETF（英文名：iShares MSCI World UCITS ETF）
投資方針・特色	MSCI ワールド指数※と同等水準の投資成果を目指します。 ※ MSCI 指数の一つで、日本を含む世界の主要国（先進国）株式を対象とした株価指数を言います。グローバルな株価指数で、2016年6月30日現在、23カ国で構成されています。
管理会社	ブラックロック・アドバイザーズ（UK）リミテッド
主たる上場取引所	ロンドン証券取引所（英国）
管理報酬等	年率0.50%
当初設定日	2005年10月28日

※上記は、有価証券届出書提出日現在のものであります。指定投資信託証券は、定性評価、定量評価等を勘案して適宜見直しが行われます。その際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券が指定から外れたり、新たな投資信託証券（新たに設定される投資信託証券も含まれます。）が指定されたりする場合があります。なお、指定投資信託証券は、必ず組入れられるとは限りません。

## &lt;絶対収益追求型ファンド&gt;

ファンド名	シングルアルファ・ファンド（適格機関投資家私募）
投資方針・特色	①安定的な収益の確保および信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。 ②主として、わが国の金融商品取引所上場株式への投資と、株価指数先物取引を活用した運用を行います。 ③運用にあたっては、テーマ・アプローチおよびボトムアップ・アプローチをベースとして、企業の成長性、収益性および技術優位性などに着目し、買いポートフォリオを構築します。 ④同時に、株価指数先物取引を売り建てることにより、市場動向に左右されない安定した中長期的利益の獲得を目指します。 ⑤資金動向、信託財産の規模、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
信託報酬等	0.6696%（税抜年率0.62%）
委託会社	ファイブスター投信投資顧問株式会社

※上記は、有価証券届出書提出日現在のものであります。指定投資信託証券は、定性評価、定量評価等を勘案して適宜見直しが行われます。その際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券が指定から外れたり、新たな投資信託証券（新たに設定される投資信託証券も含まれます。）が指定されたりする場合があります。なお、指定投資信託証券は、必ず組入れられるとは限りません。



**（３）【運用体制】**

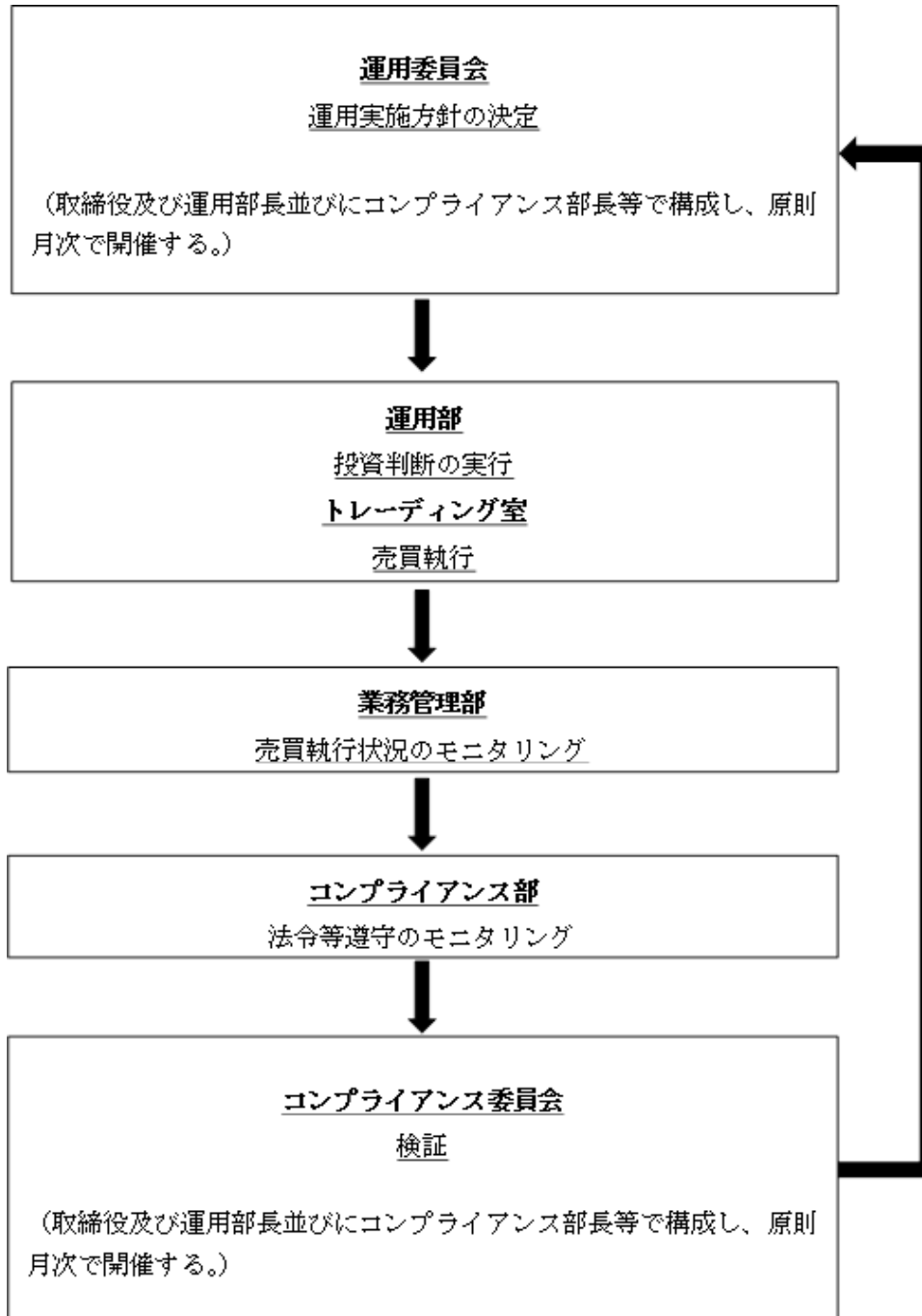
当ファンドの運用体制は以下のとおりです。

運用委員会は、経済環境や市場動向等の調査、分析に基づいて、投資判断、運用方針、運用計画等の運用に関する事項を協議、検討し、決定します。

運用部は、運用委員会で決定された運用計画等に従って、運用を実施します。

コンプライアンス部は、法令等、投資信託約款及び社内規程等の遵守状況の確認を行います。

コンプライアンス委員会では、ファンドの運用成果の評価、運用にかかるリスクの分析・管理等が報告され審議を行います。



#### 運用に関する社内規則

運用にあたっては、関係諸法令および一般社団法人投資信託協会が定める諸規則等のほか、以下の運用関連の社内規程を遵守しています。

- ・投資運用業に係る業務方法書
- ・運用基本指針
- ・運用規程
- ・運用実施細則
- ・議決権等行使指図規程
- ・内部者取引規程
- ・役職員の自己売買に関する規程
- ・運用再委任に関する規程
- ・発注先の評価・選定に係る基準

上記の運用体制は、2018年12月末現在のものであり、今後変更となる可能性があります。

**（４）【分配方針】**

## 収益分配方針

毎決算時に、原則として次の通り収益分配を行なう方針です。

## 1) 分配対象額の範囲

経費控除後の利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）などの全額とします。

## 2) 分配対象額についての分配方針

分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないこともあります。

## 3) 留保益の運用方針

収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づき運用を行いません。

## 収益分配金の支払い

## &lt; 分配金再投資コース &gt;

原則として、収益分配金は税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。

## &lt; 分配金受取りコース &gt;

毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日まで）から収益分配金を支払います。支払いは販売会社において行なわれます。

**（５）【投資制限】**

## 約款に定める投資制限

1) 投資信託証券（外貨建の投資信託証券も含みます。）への投資割合には制限を設けません。

2) 株式への直接投資は行ないません。

3) デリバティブ取引の直接利用は行ないません。

4) 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

5) 委託者は、信託財産に属する外貨建資産について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。

## 6) 資金の借入れ

1. 委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

2. 一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日、解約代金入金日もしくは償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。

3. 収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

4. 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

7) 投資信託証券への投資は、当該投資信託証券が一般社団法人投資信託協会の規則に定めるエクスポージャーがルックスルーできる場合に該当しないときは、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

8) 一般社団法人投資信託協会の規則に定める一者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会の規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

### 3【投資リスク】

#### (1) ファンドのリスク

委託会社の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。また、投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行などの登録金融機関は、投資者保護基金には加入していません。

##### < 基準価額の主な変動要因 >

当ファンド・シリーズは、投資信託証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の株式、債券および為替取引ならびに派生商品（先物取引およびオプション取引等）に投資しておりますので、各ファンドの基準価額は変動します。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。

当ファンド・シリーズは、各ファンドにおいて投資する投資信託証券および当該投資信託証券への投資配分比率が異なります。各ファンドおよび各ファンドが投資する投資信託証券の基準価額を変動させる要因の主なものは以下の通りですが、各ファンドによって、基準価額を変動させるリスク要因の重要度は異なりますのでご注意ください。

各ファンドまたは各ファンドが投資する投資信託証券の基準価額の変動要因の主なものは以下の通りです。

##### 有価証券等の価格変動リスク

各ファンドおよび各ファンドが投資する投資信託証券は、株式や債券など値動きのある有価証券を組入れておりますので、当該投資信託証券が組入れる株式や債券の価格変動の影響を受けます。また、債券の市場価格は、概して金利が上昇すると下落し、金利が低下すると上昇します。残存期間の長い債券の方が短い債券より金利変動が債券価格に与える影響が大きい傾向にあります。株式や債券等の価格は、国内外の政治、経済、社会情勢、株式や債券等の発行企業の経営状況等により変化します。その結果、各ファンドの基準価額が値下がりすることがあります。

##### 為替変動リスク

投資信託証券を通じて外貨建資産に投資しておりますので、為替相場の変動の影響を受けます。為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には各ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。なお、各ファンドは、原則として為替ヘッジを行いません。

##### 流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない等、流動性の影響を受けます。一般に、流動性の低い有価証券は、より高い有価証券に比べ価格変動率が高くなる傾向があります。

各ファンドおよび各ファンドが投資する投資信託証券が保有する有価証券等において流動性が損なわれた場合、各ファンドの基準価額はその影響を受け、値下がりする要因となる可能性があります。

##### 信用リスク

有価証券の発行体において、経営不振、その他の理由により債務不履行が発生した場合、またはそうした事態が予測される場合等には、当該発行体が発行する有価証券の価格は大きく下落し、基準価額が値下がりする要因となります。

##### カントリーリスク

投資信託証券を通じて一部外貨建資産に投資しておりますので、その国の政治、経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、各ファンドの基準価額が値下がりすることがあります。各ファンドが投資する投資信託証券には、新興市場に投資をするものが含まれています。新興市場では、法制・司法・当局による規制等が未だ整備途上の場合があり、その運用や判断が不透明である可能性があります。かかる不透明さが各ファンドに悪影響を及ぼす可能性があります。

##### デリバティブ取引等に伴うリスク

各ファンドが投資する投資信託証券において、デリバティブ取引等を利用する場合があります。当該デリバティブ取引等の価格は、対象指数や対象資産等の市況、先物等の市場の需給等を反映して変動しますので、当

該投資信託証券の基準価額が変動する要因となります。デリバティブ取引等の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、各ファンドの基準価額が値下がりすることがあります。

一部解約による資金流出に伴うリスク

一部解約金の支払資金を手当てするために、各ファンドの組入有価証券等を大量に売却しなければならない場合があります。この場合、市場規模や市場動向によっては、当初期待される価格で売却できないことがあり、当該取引により各ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

また、各ファンドが投資する投資信託証券の資金動向により、各ファンドの基準価額や運用が影響を受ける場合があります。

（ご注意）以上は、基準価額の主な変動要因であり、変動要因はこれに限られるものではありません。

<その他の留意点>

ファンド運営上のリスク

（A）取得申込みの受付の中止・取消、解約の受付の中止

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、受益権の取得のお申込みの受付を中止することがあり、また、既に受付けた取得のお申込みの受付を取消す場合があります。また、同様の理由により、ご解約のお申込みの受付を中止する場合があります。

（B）信託の途中終了

委託会社は、この信託契約を解約することが受益者のために有利と認める場合、もしくはその他やむを得ない事情等が発生したときは、信託期間の途中でも信託を終了し繰上償還させる場合があります。

（C）指定投資信託証券の運用および変更に伴うリスク

各ファンドが主要投資対象とする指定投資信託証券の一部は、外部の運用会社が運用しており、当該運用会社の業務または財産の状況の変化、運用担当者の交代、その他の理由により、運用に支障が出る場合があります。

また、指定投資信託証券の見直しは、パフォーマンスの一層の向上を目指すものではありませんが、指定投資信託証券の入替えや組入比率の変更が、結果として各ファンドの基準価額下落の原因となる場合があります。

販売会社、受託会社等関係法人に関する留意点

（A）販売会社

委託会社と販売会社は、ファンドの受益権の募集等について契約を締結しており、受益者の購入資金は、販売会社を通じて、ファンドに振り込まれますので、当該ファンドに着金するまでは、委託会社および受託会社において責任を負いません。また、収益分配金、一部解約金、償還金の支払いについても、販売会社へ支払った後の受益者への支払いについては、委託会社および受託会社は責任を負いません。

委託会社は、販売会社とは別法人であり、委託会社は設定・運用について、販売会社は販売（お申込代金の預かり等を含みます。）について、それぞれの責任を負い、互いに他についての責任を負いません。

（B）受託会社

委託会社と受託会社は、ファンドの信託契約を締結しており、収益分配金、一部解約金、償還金の支払いは、委託会社の指示により、ファンドから販売会社の指定口座に支払われます。ファンドから、販売会社の指定口座への支払いをした後は、受託会社は、当該収益分配金、一部解約金、償還金についての責任を負いません。

受託会社の格付けが低下した場合やその他信用力が低下した場合には、為替取引等の相手方の提供するクレジットラインが削減される可能性があります、その結果、各ファンドの運用に支障が出る可能性があります。

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社が辞任した後、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は各ファンドの信託を終了させます。

収益分配に係る留意点

ファンドの収益分配金は、収益分配方針に基づいて、委託会社が決定します。委託会社の判断により、基準価額の水準、市場動向等、分配対象収益の水準によって分配を行わない場合があります。

投資信託に関する一般的な留意点

（A）当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

（Ｂ）当ファンドは、預金や保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には、投資者保護基金の対象とはなりません。

## （２）リスク管理体制

投資信託財産に係る運用のリスク管理は、業務管理部とコンプライアンス部が関係諸法令及び一般社団法人投資信託協会の定める諸規則等、並びに社内規程違反等がないか監視する他、売買執行の状況や運用リスク等についてモニタリングします。

尚、この内容については原則月次で開催されるコンプライアンス委員会に報告されます。

### コンプライアンス部

コンプライアンス部は、法令・諸規則の遵守態勢の整備に関する事項および運用のリスク管理に関する事項、ならびに顧客属性調査等及び対外契約審査全般に関する事項、その他コンプライアンスに関する事項全般を統括する。

### 業務管理部

業務管理部は、法定帳簿作成・管理に係る事項、顧客管理に関する事項、その他運用事務・管理全般に関する事項を分掌する。

### コンプライアンス委員会

コンプライアンス委員会は、コンプライアンス部が策定したコンプライアンスプログラム案の審議・承認する他、承認済みのコンプライアンスプログラムの進捗状況及び月次社内コンプライアンスチェックリストの集計報告や運用リスクモニタリング結果及び運用事故等の報告並びにリスク管理事項の見直し及び運用委員会への上程について審議・決定する。

上記体制は2018年12月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

## (参考情報)

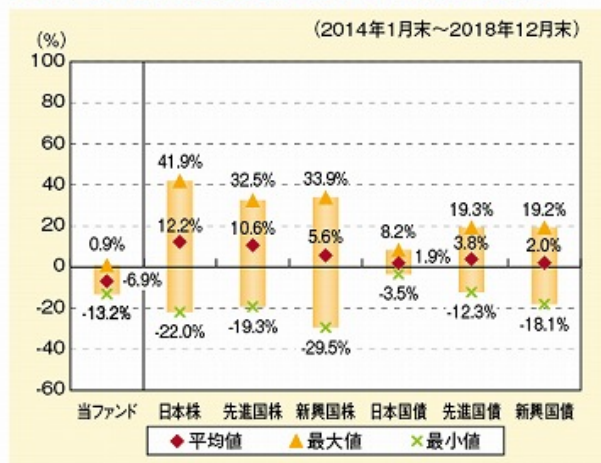
## 安定型

## ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものです。2014年1月末を10,000として指数化しております。  
 ※年間騰落率は、2014年1月から2018年12月の5年間の各月末における1年間の騰落率を表示したものです。

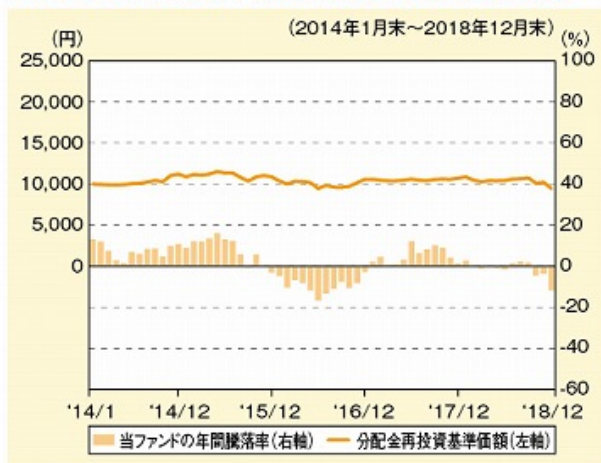
## 当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※2014年1月～2018年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値、最大値、最小値を表示したものであり、決算日に対応した数値とは異なります。  
 ※当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。  
 ※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。  
 ※先進国株ならびに新興国株については米ドルベースのため、Bloomberg L.P.(ブルームバーグ・エル・ピー)が提供する円換算の指数表示しております。

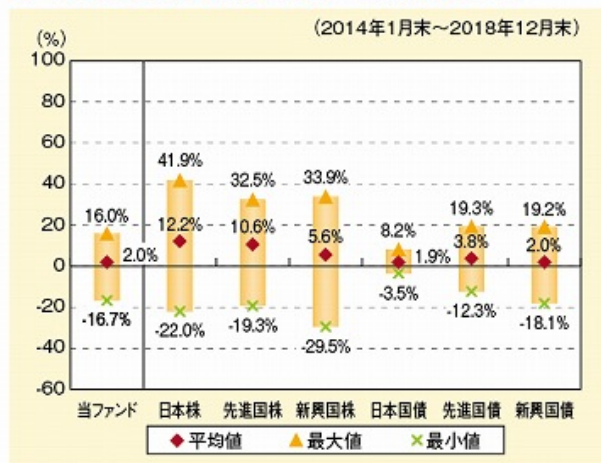
## バランス型

## ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移



※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものです。2014年1月末を10,000として指数化しております。  
 ※年間騰落率は、2014年1月から2018年12月の5年間の各月末における1年間の騰落率を表示したものです。

## ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※2014年1月～2018年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値、最大値、最小値を表示したものであり、決算日に対応した数値とは異なります。  
 ※当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。  
 ※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。  
 ※先進国株ならびに新興国株については米ドルベースのため、Bloomberg L.P.(ブルームバーグ・エル・ピー)が提供する円換算の指数表示しております。

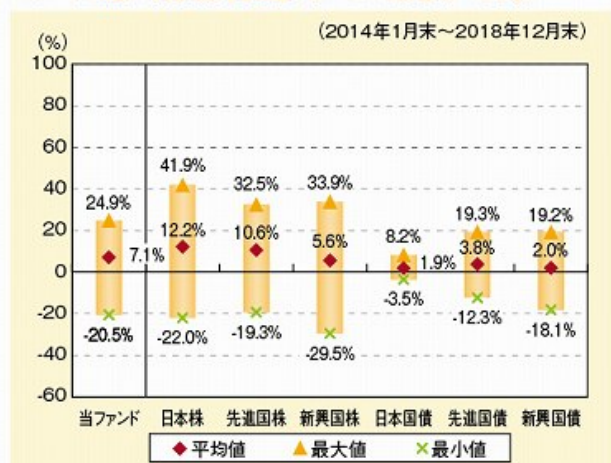
## 積極型

## ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移



※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものです。2014年1月末を10,000として指数化しております。  
 ※年間騰落率は、2014年1月から2018年12月の5年間の各月末における1年間の騰落率を表示したものです。

## ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※2014年1月～2018年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値、最大値、最小値を表示したものであり、決算日に対応した数値とは異なります。  
 ※当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。  
 ※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。  
 ※先進国株ならびに新興国株については米ドルベースのため、Bloomberg L.P.(ブルームバーグ・エル・ピー)が提供する円換算の指数表示しております。

## &lt;各資産クラスの指数について&gt;

資産クラス	指数名	注記等
日本株	TOPIX(配当込み)	TOPIXとは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値及びそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。東京証券取引所はTOPIXの算出もしくは公表方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)	MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)	MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
日本国債	NOMURA-BPI(国債)	NOMURA-BPI国債とは、野村証券株式会社が発表している我が国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、国債のほか、地方債、政府保証債、金融債、事業債および円建外債等で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI国債は野村証券株式会社の知的財産であり、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任ありません。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)	FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合投資収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数に関する著作権、商標権、その他知的財産権はすべて FTSE Fixed Income LLC に帰属します。
新興国債	FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)	FTSE新興国市場国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営され、主要新興国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数に関する著作権、商標権、その他知的財産権はすべて FTSE Fixed Income LLC に帰属します。



## 4【手数料等及び税金】

### (1)【申込手数料】

販売会社が定めるものとします。申込手数料率につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

- ・販売会社における申込手数料率は3.24%（税抜3%）が上限となっております。
- ・申込手数料の額（1口当たり）は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に申込手数料率を乗じて得た額とします。
- ・＜分配金再投資コース＞の場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、申込手数料はかかりません。

申込手数料は、商品および関連する投資環境の説明や情報提供など、ならびに購入に関する事務コストの対価です。

### (2)【換金（解約）手数料】

換金手数料

ありません。

信託財産留保額

ありません。

### (3)【信託報酬等】

信託報酬

信託報酬率（年率）＜純資産総額に対し＞	
各ファンド	1.404%（税抜1.30%）
投資対象とする投資信託証券	0.432%（税抜0.40%）程度
実質的負担	1.836%（税抜1.70%）程度

・各ファンドの信託報酬は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に対し年1.404%（税抜1.30%）の率を乗じて得た額とします。

・各ファンドが負担する実質的な信託報酬率（概算）は、年1.836%（税抜1.70%）±0.3%です。

・各ファンドが投資する投資信託証券の信託報酬率を、投資配分比率で加重平均して計算した概算値です。ただし、この値はあくまで目安であり、各ファンドの実際の投資信託証券の組入状況等によって±0.3%程度変動しますので、受益者が負担する実質的な信託報酬も変動します。なお、この実質的な信託報酬率は、有価証券届出書提出日現在の指定投資信託証券（投資対象ファンド）に基づくものであり、指定投資信託証券の変更および見直し等により将来的に変動します。

投資対象とする投資信託証券の信託報酬の詳細については、「第1 ファンドの状況 - 2 投資方針 - (2) 投資対象」 - 「投資対象とする投資信託証券の概要」をご覧ください。

信託報酬の配分

各ファンドの信託報酬の配分は、以下の通りとします。

信託報酬率（年率）			
合計	委託会社	販売会社	受託会社
1.30%	0.55%	0.70%	0.05%

役務の内容	
委託会社	委託した資金の運用の対価
販売会社	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
受託会社	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価

表中の率は税抜です。別途消費税がかかります。

#### 支払時期

信託報酬（信託報酬に係る消費税等相当額を含みます。）は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日（当該終了日が休業日の場合はその翌営業日とします。）および毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払います。

#### （４）【その他の手数料等】

各ファンドの組入る有価証券の売買に係る売買委託手数料等、ならびに外貨建資産の保管等に要する費用は、受益者の負担とし、信託財産中から支払われます。

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受益者の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、信託財産から支払います。

信託財産の財務諸表の監査に要する費用は、受益者の負担とし、各ファンドの計算期間を通じて毎日、当該計算期間の日数で除して計算し、毎計算期間を最初の6ヵ月とその翌日から計算期間末までに区分した各期間の末日または信託終了のとき当該消費税等相当額とともに信託財産中から支払われます。

以下の諸費用（消費税等相当額を含みます。）は受益者の負担とし、信託財産から支払います。なお、委託会社は、以下の諸費用の支払いを信託財産のために行い、支払金額の支払いを信託財産から受けることができ、また、現に信託財産のために支払った金額の支払いを受けることについて、あらかじめ受領する金額に上限を付すことができます。この場合、委託者は、信託財産の規模等を考慮して、かかる上限額を定期的に見直すことができます。

- 1）この信託の計理業務（設定解約処理、約定処理、基準価額算出、決算処理等）およびこれに付随する業務（法定帳票管理、法定報告等）に係る費用
- 2）振替受益権に係る費用ならびにやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合における発行および管理事務に係る費用
- 3）有価証券届出書、有価証券報告書、半期報告書および臨時報告書（これらの訂正に係る書類を含みます。）の作成、印刷および提出に係る費用
- 4）目論見書等（訂正事項分を含みます。）の作成、印刷および交付に係る費用（これらを監督官庁に提出する場合の提出費用も含みます。）
- 5）信託約款の作成、印刷および交付に係る費用（これを監督官庁に提出する場合の提出費用も含みます。）
- 6）運用報告書の作成、印刷および交付に係る費用（これを監督官庁に提出する場合の提出費用も含みます。）
- 7）この信託の受益者に対してする公告に係る費用ならびに信託約款の変更または信託契約の解約に係る事項を記載した書面の作成、印刷および交付に係る費用
- 8）格付の取得に要する費用
- 9）この信託の法律顧問および税務顧問に対する報酬および費用

なお、投資対象の投資信託証券においても同様の費用がかかり、当該投資信託証券の信託財産から支払われます。また、投資する投資信託証券の一部には、実績報酬が発生するものがある場合があります。その場合には、当該投資信託証券の信託財産中から支払われます。

監査費用は、監査法人などに支払う各ファンドの監査に係る費用です。

上記その他の手数料等は、運用の状況等により異なるため、料率、上限率等をあらかじめ表示することができません。

受益者が負担する手数料などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なるため、あらかじめ表示することができません。

上記手数料等については、販売会社または委託会社までお問い合わせください。

## （５）【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。

### 個人受益者の場合

#### 1) 収益分配金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については配当所得として、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収（原則として、確定申告は不要です。）が行なわれます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）のいずれかを選択することもできます。

#### 2) 解約金および償還金に対する課税

解約時および償還時の差益（譲渡益）<sup>\*</sup>については譲渡所得として、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による申告分離課税の対象となり、確定申告が必要となります。なお、源泉徴収ありの特定口座（源泉徴収選択口座）を選択している場合は、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収（原則として、確定申告は不要です。）が行なわれます。

<sup>\*</sup>解約価額および償還価額から取得費用（申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額を含みます。）を控除した利益

確定申告等により、解約時および償還時の差損（譲渡損失）については、上場株式等の譲渡益、上場株式等の配当等および特定公社債等の利子所得（申告分離課税を選択したものに限ります。）と損益通算が可能です。また、解約時および償還時の差益（譲渡益）、普通分配金および特定公社債等の利子所得（申告分離課税を選択したものに限ります。）については、上場株式等の譲渡損失と損益通算が可能です。

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、年間120万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。また、未成年者少額投資非課税制度（ジュニアNISA）をご利用の場合、20歳未満の居住者などを対象に、年間80万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

### 法人受益者の場合

#### 1) 収益分配金、解約金、償還金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については配当所得として、15.315%（所得税のみ）の税率による源泉徴収が行なわれます。源泉徴収された税金は、所有期間に応じて法人税から控除される場合があります。

#### 2) 益金不算入制度の適用

益金不算入制度は適用されません。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

### 個別元本

#### 1) 各受益者の買付時の基準価額（申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額は含まれません。）が個別元本になります。

#### 2) 受益者が同一ファンドを複数回お申込みの場合、1口当たりの個別元本は、申込口数で加重平均した値となります。ただし、個別元本は、複数支店で同一ファンドをお申込みの場合などにより把握方法が異なる場合がありますので、販売会社にお問い合わせください。

### 普通分配金と元本払戻金(特別分配金)

#### 1) 収益分配金には課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

#### 2) 受益者が収益分配金を受け取る際

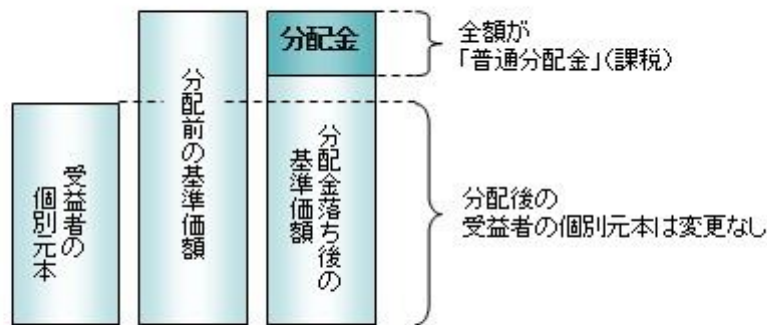
イ) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本と同額かまたは上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。

ロ) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本を下回っている場合には、収益分配金の範囲内でその下回っている部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、収益分配金から元本払戻金(特別分配金)を控除した金額が普通分配金となります。

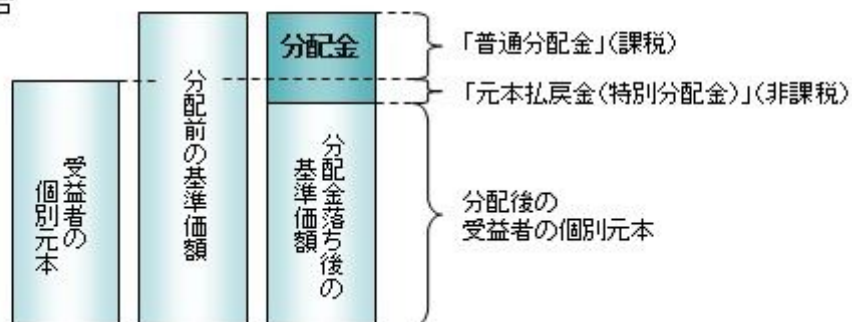
ハ) 収益分配金発生時に、その個別元本から元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の受益者の個別元本となります。

<分配金に関するイメージ図>

イ) の場合



ロ)、ハ) の場合



上記は2018年12月末現在のものですので、税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家などにご確認されることをお勧めします。

## 5【運用状況】

## 【ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・安定型】

以下の運用状況は2018年12月末日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## (1)【投資状況】

資産の種類	国・地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資証券	アメリカ合衆国	17,193,988	47.09
投資信託受益証券	日本	18,301,477	50.13
コール・ローン等、その他資産(負債控除後)		1,015,512	2.78
合計(純資産総額)		36,510,977	100.00

(注)国・地域は、発行者が法的に登録されている国の、または登録が行われていない場合は法的な所在地のある国を表します。

## (2)【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

## イ.評価額上位銘柄明細

国・地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	投資信託 受益証券	シングルアルファ・ファンド(適格機関投資家私募)	18,047,015	1.0776	19,447,463	1.0141	18,301,477	50.13
アメリカ 合衆国	投資証券	iシェアーズ世界国債(除く米国)ETF	2,380	5,456.76	12,987,088	5,345.76	12,722,908	34.85
アメリカ 合衆国	投資証券	iシェアーズ・フローティングレート・ ボンドETF	800	5,663.22	4,530,753	5,588.85	4,471,080	12.25

(注)国・地域は、発行者が法的に登録されている国の、または登録が行われていない場合は法的な所在地のある国を表します。

## ロ.種類別の投資比率

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	50.13
投資証券	47.09
合計	97.22

## 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## (3)【運用実績】

## 【純資産の推移】

期別	純資産総額(円)		1口当たり純資産額(円)	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
第8計算期間末 (2009年 6月 1日)	288,492,396	288,492,396	0.9227	0.9227
第9計算期間末 (2010年 5月31日)	238,038,130	238,038,130	0.9089	0.9089
第10計算期間末 (2011年 5月31日)	231,442,126	231,442,126	0.9039	0.9039
第11計算期間末 (2012年 5月31日)	213,945,977	213,945,977	0.8749	0.8749

第12計算期間末 (2013年 5月31日)	196,713,379	196,713,379	0.8749	0.8749
第13計算期間末 (2014年 6月 2日)	171,195,169	171,195,169	0.8400	0.8400
第14計算期間末 (2015年 6月 1日)	95,012,596	95,012,596	0.8501	0.8501
第15計算期間末 (2016年 5月31日)	72,974,806	72,974,806	0.7565	0.7565
第16計算期間末 (2017年 5月31日)	62,342,423	62,342,423	0.6851	0.6851
第17計算期間末 (2018年 5月31日)	42,862,116	42,862,116	0.6050	0.6050
2017年12月末日	44,914,435		0.6307	
2018年 1月末日	45,618,061		0.6402	
2月末日	44,240,992		0.6184	
3月末日	44,368,898		0.6177	
4月末日	42,772,565		0.6094	
5月末日	42,862,116		0.6050	
6月末日	43,198,469		0.6086	
7月末日	43,163,919		0.6075	
8月末日	43,279,003		0.6034	
9月末日	42,138,347		0.6025	
10月末日	41,652,410		0.5925	
11月末日	37,147,211		0.5899	
12月末日	36,510,977		0.5764	

## 【分配の推移】

期	期間	1口当たりの分配金（円）
第8期	2008年 6月 3日～2009年 6月 1日	0.0000
第9期	2009年 6月 2日～2010年 5月31日	0.0000
第10期	2010年 6月 1日～2011年 5月31日	0.0000
第11期	2011年 6月 1日～2012年 5月31日	0.0000
第12期	2012年 6月 1日～2013年 5月31日	0.0000
第13期	2013年 6月 1日～2014年 6月 2日	0.0000
第14期	2014年 6月 3日～2015年 6月 1日	0.0000
第15期	2015年 6月 2日～2016年 5月31日	0.0000
第16期	2016年 6月 1日～2017年 5月31日	0.0000
第17期	2017年 6月 1日～2018年 5月31日	0.0000
当中間期	2018年 6月 1日～2018年11月30日	

## 【収益率の推移】

期	期間	収益率（％）
第8期	2008年 6月 3日～2009年 6月 1日	7.08
第9期	2009年 6月 2日～2010年 5月31日	1.50
第10期	2010年 6月 1日～2011年 5月31日	0.55
第11期	2011年 6月 1日～2012年 5月31日	3.21
第12期	2012年 6月 1日～2013年 5月31日	0.00
第13期	2013年 6月 1日～2014年 6月 2日	3.99
第14期	2014年 6月 3日～2015年 6月 1日	1.20
第15期	2015年 6月 2日～2016年 5月31日	11.01
第16期	2016年 6月 1日～2017年 5月31日	9.44
第17期	2017年 6月 1日～2018年 5月31日	11.7
当中間期	2018年 6月 1日～2018年11月30日	2.5

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

## (4) 【設定及び解約の実績】

期	期間	設定口数（口）	解約口数（口）
第8期	2008年 6月 3日～2009年 6月 1日	17,340,310	39,240,565
第9期	2009年 6月 2日～2010年 5月31日	22,879,523	73,641,889
第10期	2010年 6月 1日～2011年 5月31日	13,472,699	19,319,400
第11期	2011年 6月 1日～2012年 5月31日	11,048,203	22,550,435
第12期	2012年 6月 1日～2013年 5月31日	10,226,200	29,925,793
第13期	2013年 6月 1日～2014年 6月 2日	8,464,258	29,504,606
第14期	2014年 6月 3日～2015年 6月 1日	7,212,864	99,248,835
第15期	2015年 6月 2日～2016年 5月31日	5,116,212	20,415,139
第16期	2016年 6月 1日～2017年 5月31日	4,313,491	9,781,836
第17期	2017年 6月 1日～2018年 5月31日	2,415,424	22,572,789
当中間期	2018年 6月 1日～2018年11月30日	3,358,077	11,223,870

## 【ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・バランス型】

以下の運用状況は2018年12月末日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## (1) 【投資状況】

資産の種類	国・地域	時価合計（円）	投資比率（％）
投資証券	アメリカ合衆国	29,636,214	24.29
	アイルランド	58,011,130	47.55
投資信託受益証券	日本	31,322,318	25.67
コール・ローン等、その他資産（負債控除後）		3,035,676	2.49
合計（純資産総額）		122,005,338	100.00

(注)国・地域は、発行者が法的に登録されている国の、または登録が行われていない場合は法的な所在地のある国を表します。

## (2) 【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

## イ. 評価額上位銘柄明細

国・地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
アイルランド	投資証券	iシェアーズMSCIワールドUCITS マーケットETF米ドル(Dist)	13,380	4,981.68	66,654,878	4,335.66	58,011,130	47.55
日本	投資信託 受益証券	シングルアルファ・ファンド(適格機関投資家私募)	30,886,814	1.0773	33,276,959	1.0141	31,322,318	25.67
アメリカ合衆国	投資証券	iシェアーズ・フローティングレート・ボンドETF	2,900	5,663.22	16,423,981	5,588.85	16,207,665	13.28
アメリカ合衆国	投資証券	iシェアーズ世界国債(除く米国)ETF	2,512	5,456.76	13,707,381	5,345.76	13,428,549	11.01

(注)国・地域は、発行者が法的に登録されている国の、または登録が行われていない場合は法的な所在地のある国を表します。

## ロ. 種類別の投資比率

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	25.67
投資証券	71.84
合計	97.51

## 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## (3) 【運用実績】

## 【純資産の推移】

期別	純資産総額（円）		1口当たり純資産額(円)	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
第8計算期間末 (2009年 6月 1日)	441,327,558	441,327,558	0.8246	0.8246
第9計算期間末 (2010年 5月31日)	486,380,029	486,380,029	0.8302	0.8302
第10計算期間末 (2011年 5月31日)	512,233,795	512,233,795	0.8555	0.8555
第11計算期間末 (2012年 5月31日)	426,635,781	426,635,781	0.7966	0.7966



第12計算期間末 (2013年 5月31日)	443,575,816	443,575,816	1.0228	1.0228
第13計算期間末 (2014年 6月 2日)	345,348,621	345,348,621	1.0400	1.0400
第14計算期間末 (2015年 6月 1日)	350,438,535	350,438,535	1.2058	1.2058
第15計算期間末 (2016年 5月31日)	301,954,883	301,954,883	1.0622	1.0622
第16計算期間末 (2017年 5月31日)	195,746,135	195,746,135	1.0946	1.0946
第17計算期間末 (2018年 5月31日)	139,736,673	139,736,673	1.0859	1.0859
2017年12月末日	146,573,198		1.1208	
2018年 1月末日	148,083,713		1.1355	
2月末日	143,149,506		1.0941	
3月末日	138,885,725		1.0737	
4月末日	139,753,668		1.0891	
5月末日	139,736,673		1.0859	
6月末日	140,566,954		1.0910	
7月末日	142,919,407		1.1088	
8月末日	143,575,449		1.1114	
9月末日	139,731,118		1.1251	
10月末日	130,009,981		1.0569	
11月末日	131,422,460		1.0662	
12月末日	122,005,338		0.9895	

## 【分配の推移】

期	期間	1口当たりの分配金(円)
第8期	2008年 6月 3日 ~ 2009年 6月 1日	0.0000
第9期	2009年 6月 2日 ~ 2010年 5月31日	0.0000
第10期	2010年 6月 1日 ~ 2011年 5月31日	0.0000
第11期	2011年 6月 1日 ~ 2012年 5月31日	0.0000
第12期	2012年 6月 1日 ~ 2013年 5月31日	0.0000
第13期	2013年 6月 1日 ~ 2014年 6月 2日	0.0000
第14期	2014年 6月 3日 ~ 2015年 6月 1日	0.0000
第15期	2015年 6月 2日 ~ 2016年 5月31日	0.0000
第16期	2016年 6月 1日 ~ 2017年 5月31日	0.0000
第17期	2017年 6月 1日 ~ 2018年 5月31日	0.0000
当中間期	2018年 6月 1日 ~ 2018年11月30日	

## 【収益率の推移】

期	期間	収益率（％）
第8期	2008年 6月 3日～2009年 6月 1日	23.82
第9期	2009年 6月 2日～2010年 5月31日	0.68
第10期	2010年 6月 1日～2011年 5月31日	3.05
第11期	2011年 6月 1日～2012年 5月31日	6.88
第12期	2012年 6月 1日～2013年 5月31日	28.40
第13期	2013年 6月 1日～2014年 6月 2日	1.68
第14期	2014年 6月 3日～2015年 6月 1日	15.94
第15期	2015年 6月 2日～2016年 5月31日	11.91
第16期	2016年 6月 1日～2017年 5月31日	3.05
第17期	2017年 6月 1日～2018年 5月31日	0.8
当中間期	2018年 6月 1日～2018年11月30日	1.8

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

## (4) 【設定及び解約の実績】

期	期間	設定口数（口）	解約口数（口）
第8期	2008年 6月 3日～2009年 6月 1日	89,684,823	30,728,857
第9期	2009年 6月 2日～2010年 5月31日	76,418,090	25,727,762
第10期	2010年 6月 1日～2011年 5月31日	63,433,467	50,533,309
第11期	2011年 6月 1日～2012年 5月31日	49,934,683	113,145,832
第12期	2012年 6月 1日～2013年 5月31日	38,819,314	140,719,115
第13期	2013年 6月 1日～2014年 6月 2日	21,156,485	122,768,471
第14期	2014年 6月 3日～2015年 6月 1日	17,369,486	58,791,920
第15期	2015年 6月 2日～2016年 5月31日	15,965,731	22,328,253
第16期	2016年 6月 1日～2017年 5月31日	14,086,010	119,524,860
第17期	2017年 6月 1日～2018年 5月31日	1,655,865	51,807,491
当中間期	2018年 6月 1日～2018年11月30日	1,571,132	6,994,409

## 【ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・積極型】

以下の運用状況は2018年12月末日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## (1) 【投資状況】

資産の種類	国・地域	時価合計（円）	投資比率（％）
投資証券	アイルランド	314,335,350	86.13
投資信託受益証券	日本	44,987,109	12.33
コール・ローン等、その他資産（負債控除後）		5,638,789	1.55
合計（純資産総額）		364,961,248	100.00

(注)国・地域は、発行者が法的に登録されている国の、または登録が行われていない場合は法的な所在地のある国を表します。

## (2) 【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

## イ. 評価額上位銘柄明細

国・地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
アイルランド	投資証券	iシェアーズMSCIワールドUCITS マーケットETF米ドル (Dist)	72,500	4,981.68	361,171,800	4,335.66	314,335,350	86.13
日本	投資信託 受益証券	シングルアルファ・ファンド（適格機関投資家私募）	44,361,611	1.0776	47,804,072	1.0141	44,987,109	12.33

(注)国・地域は、発行者が法的に登録されている国の、または登録が行われていない場合は法的な所在地のある国を表します。

## ロ. 種類別の投資比率

種類	投資比率（％）
投資信託受益証券	12.33
投資証券	86.13
合計	98.45

## 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## (3) 【運用実績】

## 【純資産の推移】

期別	純資産総額（円）		1口当たり純資産額（円）	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
第8計算期間末（2009年 6月 1日）	888,435,342	888,435,342	0.6977	0.6977
第9計算期間末（2010年 5月31日）	1,045,664,236	1,045,664,236	0.7253	0.7253
第10計算期間末（2011年 5月31日）	1,138,390,009	1,138,390,009	0.7695	0.7695
第11計算期間末（2012年 5月31日）	967,568,093	967,568,093	0.6910	0.6910
第12計算期間末（2013年 5月31日）	1,108,994,294	1,108,994,294	1.0195	1.0195
第13計算期間末（2014年 6月 2日）	874,034,621	874,034,621	1.0683	1.0683
第14計算期間末（2015年 6月 1日）	822,664,610	822,664,610	1.3304	1.3304
第15計算期間末（2016年 5月31日）	686,339,660	686,339,660	1.1442	1.1442
第16計算期間末（2017年 5月31日）	532,632,765	532,632,765	1.2577	1.2577
第17計算期間末（2018年 5月31日）	418,253,660	418,253,660	1.3345	1.3345
2017年12月末日	467,212,912		1.3757	
2018年 1月末日	462,297,979		1.4005	
2月末日	444,263,060		1.3450	
3月末日	428,175,165		1.2947	
4月末日	432,322,536		1.3347	
5月末日	418,253,660		1.3345	
6月末日	418,977,987		1.3413	
7月末日	434,293,143		1.3855	
8月末日	440,321,151		1.3997	
9月末日	438,777,178		1.4320	
10月末日	400,592,234		1.3030	
11月末日	410,624,338		1.3310	
12月末日	364,961,248		1.1913	

## 【分配の推移】

期	期間	1口当たりの分配金（円）
第8期	2008年 6月 3日～2009年 6月 1日	0.0000
第9期	2009年 6月 2日～2010年 5月31日	0.0000
第10期	2010年 6月 1日～2011年 5月31日	0.0000
第11期	2011年 6月 1日～2012年 5月31日	0.0000
第12期	2012年 6月 1日～2013年 5月31日	0.0000
第13期	2013年 6月 1日～2014年 6月 2日	0.0000
第14期	2014年 6月 3日～2015年 6月 1日	0.0000
第15期	2015年 6月 2日～2016年 5月31日	0.0000
第16期	2016年 6月 1日～2017年 5月31日	0.0000
第17期	2017年 6月 1日～2018年 5月31日	0.0000
当中間期	2018年 6月 1日～2018年11月30日	

## 【収益率の推移】

期	期間	収益率（％）
第8期	2008年 6月 3日～2009年 6月 1日	36.77
第9期	2009年 6月 2日～2010年 5月31日	3.96
第10期	2010年 6月 1日～2011年 5月31日	6.09
第11期	2011年 6月 1日～2012年 5月31日	10.20
第12期	2012年 6月 1日～2013年 5月31日	47.54
第13期	2013年 6月 1日～2014年 6月 2日	4.79
第14期	2014年 6月 3日～2015年 6月 1日	24.53
第15期	2015年 6月 2日～2016年 5月31日	14.00
第16期	2016年 6月 1日～2017年 5月31日	9.92
第17期	2017年 6月 1日～2018年 5月31日	6.1
当中間期	2018年 6月 1日～2018年11月30日	0.3

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

## (4) 【設定及び解約の実績】

期	期間	設定口数（口）	解約口数（口）
第8期	2008年 6月 3日～2009年 6月 1日	357,303,774	73,522,086
第9期	2009年 6月 2日～2010年 5月31日	262,448,944	94,275,770
第10期	2010年 6月 1日～2011年 5月31日	204,074,623	166,318,749
第11期	2011年 6月 1日～2012年 5月31日	163,048,776	242,158,848
第12期	2012年 6月 1日～2013年 5月31日	119,771,379	432,208,041
第13期	2013年 6月 1日～2014年 6月 2日	64,238,659	333,891,922
第14期	2014年 6月 3日～2015年 6月 1日	47,788,039	247,607,970
第15期	2015年 6月 2日～2016年 5月31日	42,063,542	60,555,138
第16期	2016年 6月 1日～2017年 5月31日	34,040,129	210,382,345
第17期	2017年 6月 1日～2018年 5月31日	5,358,981	115,437,286
当中間期	2018年 6月 1日～2018年11月30日	7,168,650	12,090,154

## 参考情報

## 運用実績

データ基準日：2018年12月末日現在

## ■ 基準価額・純資産の推移

	安定型	バランス型	積極型
基準価額	5,764 円	9,895 円	11,913 円
純資産総額	0.4 億円	1.2 億円	3.6 億円



## ■ 分配の推移

決算期	安定型	バランス型	積極型
第13期 (2014年6月2日)	0 円	0 円	0 円
第14期 (2015年6月1日)	0 円	0 円	0 円
第15期 (2016年5月31日)	0 円	0 円	0 円
第16期 (2017年5月31日)	0 円	0 円	0 円
第17期 (2018年5月31日)	0 円	0 円	0 円
設定来累計	0 円	0 円	0 円

※分配金は、1万円当たり、税引き前の金額です。

## ■ 主要な資産の状況

各ファンドの内訳		安定型	バランス型	積極型
債券型	iシェアーズ世界国債 (除く米国) ETF	34.8%	11.0%	—
	iシェアーズ・フローティングレート・ボンドETF	12.2%	13.3%	—
株式型	iシェアーズ MSCI ワールド UCITS ETF	—	47.5%	86.1%
	絶対収益追求型 シングルアルファ・ファンド (適格機関投資家私募)	50.1%	25.7%	12.3%
現金など		2.8%	2.5%	1.5%
合計		100.0%	100.0%	100.0%

※各ファンドの内訳は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合があります。

## ■ 年間収益率の推移 (暦年ベース)



※当ファンドにはベンチマークはありません。2018年は12月末までの収益率です。

※各ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。最新の運用実績は、表紙に記載する委託会社のホームページでご確認いただけます。

## 第2【管理及び運営】

### 1【申込（販売）手続等】

#### (1) 申込方法

販売会社所定の方法でお申し込みください。

#### (2) コースの選択

収益分配金の受取方法によって、＜分配金再投資コース＞と＜分配金受取りコース＞の2通りがあります。ただし、販売会社によって取扱コースは異なります。

##### ＜分配金再投資コース＞

収益分配金を自動的に再投資するコースです。

##### ＜分配金受取りコース＞

収益分配金を再投資せず、その都度受け取るコースです。

#### (3) 申込みの受付

販売会社の営業日に受け付けます。

#### (4) 取扱時間

原則として、午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。なお、上記時刻を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとなります。

#### (5) 取得申込不可日

販売会社の営業日であっても、取得申込日が下記のいずれかに該当する場合は、取得の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

ニューヨーク・クもしくはロンドンの各取引所の休業日

ニューヨーク・クもしくはロンドンの銀行休業日

#### (6) 申込金額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に取得申込口数を乗じて得た額に、申込手数料と当該手数料に係る消費税等相当額を加算した額です。

#### (7) 申込単位

販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

委託会社の照会先

＜ファイブスター投信投資顧問株式会社 お客様デスク＞

電話番号：03-3553-8711

受付時間：委託会社の営業日の午前9時～午後5時まで

ホームページアドレス：<http://www.fivestar-am.co.jp/>

#### (8) 申込代金の支払い

取得申込者は、申込金額を販売会社が指定する日までに販売会社へお支払いください。

#### (9) 受付の中止および取消

委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得の申込みの受付を中止すること、および既に受け付けた取得の申込みの受付を取り消すことができます。

金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。

## 2【換金（解約）手続等】

### <解約請求による換金>

#### （1）解約の受付

販売会社の営業日に受け付けます。

#### （2）取扱時間

原則として、午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。なお、上記時刻を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとなります。

#### （3）解約請求不可日

販売会社の営業日であっても、解約請求日が下記のいずれかに該当する場合は、解約請求の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

ニューヨークもしくはロンドンの各取引所の休業日

ニューヨークもしくはロンドンの銀行休業日

#### （4）解約制限

ファンドの規模および商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の解約には受付時間制限および金額制限（1億口または1億円以上の解約は、正午まで）を行なう場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

#### （5）解約価額

解約請求受付日の翌営業日の基準価額とします。

・基準価額につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

委託会社の照会先

<ファイブスター投信投資顧問株式会社 お客様デスク>

電話番号：03-3553-8711

受付時間：委託会社の営業日の午前9時～午後5時まで

ホームページアドレス：<http://www.fivestar-am.co.jp/>

#### （6）手取額

1口当たりの手取額は、解約価額から所得税および地方税を差し引いた金額となります。

税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。

詳しくは、「課税上の取扱い」をご覧ください。

#### （7）解約単位

1口単位

販売会社によっては、解約単位が異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

#### （8）解約代金の支払い

原則として、解約請求受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

#### （9）受付の中止および取消

・委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止すること、および既に受け付けた解約請求の受付を取り消すことができます。

・解約請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行なった当日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日（この計算日が解約請求を受け付けない日であるときは、この計算日以降の最初の解約請求を受け付けることができる日とします。）に解約請求を受け付けたものとして取り扱います。



### 3【資産管理等の概要】

#### (1)【資産の評価】

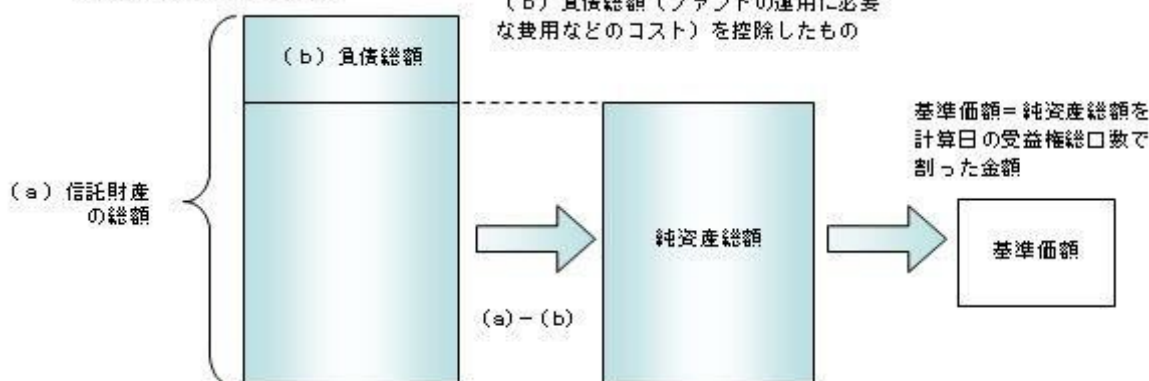
##### 基準価額の算出

- ・基準価額は委託会社の営業日において日々算出されます。
- ・基準価額とは、信託財産に属する資産を評価して得た信託財産の総額から負債総額を控除した金額（純資産総額）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、ファンドは1万口あたりに換算した価額で表示することがあります。

#### <基準価額算出の流れ>

(a) 信託財産の総額= ファンドに組み入れられている有価証券など全てを時価などにより評価したもの

純資産総額= (a) 信託財産の総額から (b) 負債総額（ファンドの運用に必要な費用などのコスト）を控除したもの



##### 有価証券などの評価基準

- ・信託財産に属する資産については、法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価します。

#### <主な資産の評価方法>

##### 投資信託証券

原則として、基準価額計算日に知りうる直近の日の基準価額で評価します。

- ・外貨建資産（外国通貨表示の有価証券、預金その他の資産をいいます。）の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。

##### 基準価額の照会方法

販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

##### 委託会社の照会先

<ファイブスター投信投資顧問株式会社 お客様デスク>

電話番号：03-3553-8711

受付時間：委託会社の営業日の午前9時～午後5時まで

ホームページアドレス：<http://www.fivestar-am.co.jp/>

#### (2)【保管】

該当事項はありません。

#### (3)【信託期間】

無期限とします（2001年6月1日設定）。ただし、約款の規定に基づき、信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。

**（４）【計算期間】**

毎年6月1日から翌年5月31日までとします。ただし、各計算期間の末日が休業日のときはその翌営業日を計算期間の末日とし、その翌日より次の計算期間が開始されます。

## (5) 【その他】

## 信託の終了（繰上償還）

- 1) 委託会社は、次のいずれかの場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し繰上償還させることができます。
  - イ) 繰上償還することが受益者のために有利であると認めるとき
  - ロ) やむを得ない事情が発生したとき
- 2) この場合、あらかじめ、その旨およびその理由などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行いません。
- 3) この繰上償還に異議のある受益者は、一定の期間内（1ヵ月以上で委託会社が定めます。以下同じ。）に異議を述べることができます。（後述の「異議の申立て」をご覧ください。）
- 4) 委託会社は、次のいずれかの場合には、後述の「異議の申立て」の規定は適用せず、信託契約を解約し繰上償還させます。
  - イ) 信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合で、一定の期間を設けてその公告および書面の交付が困難な場合
  - ロ) 監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたとき
  - ハ) 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したとき（監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引き継ぐことを命じ、異議申立の結果、信託約款の変更が成立の場合を除きます。）
  - ニ) 受託会社が委託会社の承諾を受けてその任務を辞任した場合またはその任務に違反するなどして解任された場合に、委託会社が新受託会社を選任できないとき
- 5) 繰上償還を行なう際には、委託会社は、その旨をあらかじめ監督官庁に届け出ます。

## 償還金について

- ・ 償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日（償還日が休業日の場合は翌営業日）から起算して5営業日まで）から受益者に支払います。
- ・ 償還金の支払いは、販売会社において行なわれます。

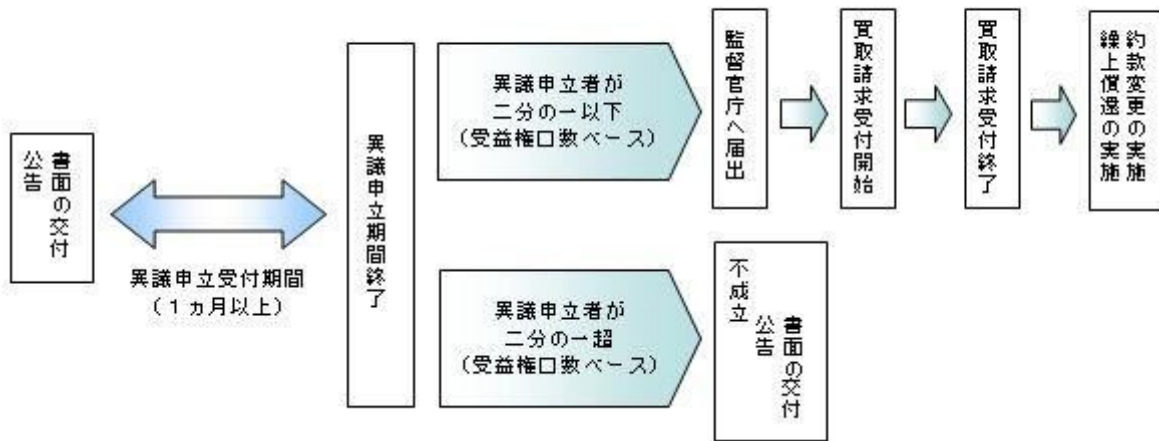
## 信託約款の変更

- 1) 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、この信託約款を変更することができます。信託約款の変更を行なう際には、委託会社は、その旨をあらかじめ監督官庁に届け出ます。
- 2) この変更事項のうち、その内容が重大なものについては、あらかじめ、その旨およびその内容などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行いません。
- 3) この信託約款の変更に異議のある受益者は、一定の期間内に異議を述べることができます。（後述の「異議の申立て」をご覧ください。）
- 4) 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、後述の「異議の申立て」の規定を適用します。

## 異議の申立て

- 1) 繰上償還または信託約款の重大な変更に対して、受益者は一定の期間内に委託会社に対して所定の手続きにより異議を述べることができます。一定の期間内に、異議を述べた受益者の受益権口数が受益権総口数の二分の一を超えるときは、繰上償還または信託約款の変更は行ないません。
- 2) 委託会社は、繰上償還または信託約款の変更を行わない場合は、その旨およびその理由などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行いません。
- 3) なお、一定の期間内に、異議を述べた受益者の受益権口数が受益権総口数の二分の一以下で、繰上償還、信託約款の変更を行なう場合は、異議を述べた受益者は受託会社に対し、自己に帰属する受益権を信託財産をもって買い取るべき旨を請求できます。

## &lt;繰上償還、信託約款の重大な変更を行なう場合の手続きの流れ&gt;

**公告**

公告は電子公告により行ない、委託会社のホームページに掲載します。

ホームページ アドレス <http://www.fivestar-am.co.jp/>

なお、やむを得ない事由によって公告を電子公告によって行なうことができない場合には、公告は日本経済新聞に掲載します。

**運用報告書の作成**

- ・委託会社は、毎期決算後および償還後に期中の運用経過、組入有価証券の内容および有価証券の売買状況などを記載した運用報告書を作成します。
- ・交付運用報告書は、原則として知れている受益者に対して交付されます。
- ・運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページに掲載されます。ただし、受益者から運用報告書（全体版）の交付請求があった場合には、交付します。

ホームページ アドレス <http://www.fivestar-am.co.jp/>

**関係法人との契約について**

販売会社との募集の取扱いなどに関する契約の有効期間は契約日より1年間とします。ただし、期間満了の3ヵ月前（または60日前）までに、販売会社、委託会社いずれからも別段の意思表示がないときは、自動的に1年間延長されるものとし、以後も同様とします。

**他の受益者の氏名などの開示の請求の制限**

受益者は、委託会社または受託会社に対し、次に掲げる事項の開示の請求を行なうことはできません。

1. 他の受益者の氏名または名称および住所
2. 他の受益者が有する受益権の内容

**4【受益者の権利等】**

受益者の有する主な権利は次の通りです。

**(1) 収益分配金・償還金受領権**

- ・受益者は、ファンドの収益分配金・償還金を、自己に帰属する受益権の口数に応じて受領する権利を有します。
- ・ただし、受益者が収益分配金については支払開始日から5年間、償還金については支払開始日から10年間請求を行わない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

**(2) 解約請求権**

受益者は、自己に帰属する受益権につき販売会社を通じて、委託会社に解約の請求をすることができます。

**(3) 帳簿閲覧権**

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内にファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧を請求することができます。

### 第3【ファンドの経理状況】

- (1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- (2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第17期計算期間（平成29年6月1日から平成30年5月31日まで）の財務諸表について、イデア監査法人による監査を受けております。

## 1【財務諸表】

## 【ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・安定型】

## (1)【貸借対照表】

(単位：円)

区分	第16期 (平成29年 5月31日現在)	第17期 (平成30年 5月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	-	12,256
金銭信託	-	3,265,649
コール・ローン	3,185,890	-
投資信託受益証券	23,650,525	23,190,736
投資証券	38,088,809	18,740,619
流動資産合計	64,925,224	45,209,260
資産合計	64,925,224	45,209,260
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払解約金	6,494	-
未払受託者報酬	17,525	11,903
未払委託者報酬	438,018	297,592
未払利息	8	-
その他未払費用	2,120,756	2,037,649
流動負債合計	2,582,801	2,347,144
負債合計	2,582,801	2,347,144
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	90,999,423	70,842,058
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	28,657,000	27,979,942
（分配準備積立金）	1,071,954	808,155
元本等合計	62,342,423	42,862,116
純資産合計	62,342,423	42,862,116
負債純資産合計	64,925,224	45,209,260

## （２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

区分	第16期		第17期	
	自	平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日	自	平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日
<b>営業収益</b>				
受取配当金		1,072,993		495,866
受取利息		-		54
有価証券売買等損益		2,512,417		1,687,718
為替差損益		73,674		255,445
営業収益合計		1,513,098		1,447,243
<b>営業費用</b>				
支払利息		2,005		1,696
受託者報酬		36,064		27,393
委託者報酬		901,413		684,774
その他費用		4,357,229		4,432,337
営業費用合計		5,296,711		5,146,200
営業利益又は営業損失（ ）		6,809,809		6,593,443
経常利益又は経常損失（ ）		6,809,809		6,593,443
当期純利益又は当期純損失（ ）		6,809,809		6,593,443
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		491,735		1,061,142
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		23,492,962		28,657,000
剰余金増加額又は欠損金減少額		2,390,509		7,115,733
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		2,390,509		7,115,733
剰余金減少額又は欠損金増加額		1,236,473		906,374
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		1,236,473		906,374
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		28,657,000		27,979,942



## (3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第17期
	自 平成29年6月 1日 至 平成30年5月31日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券及び投資証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券及び投資証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第16期	第17期
	(平成29年5月31日現在)	(平成30年5月31日現在)
1. 投資信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額及び期中一部解約元本額	期首元本額 96,467,768円 期中追加設定元本額 4,313,491円 期中一部解約元本額 9,781,836円	期首元本額 90,999,423円 期中追加設定元本額 2,415,424円 期中一部解約元本額 22,572,789円
2. 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は28,657,000円です。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は27,979,942円です。
3. 計算期間末日における受益権の総数	90,999,423口	70,842,058口

## （損益及び剰余金計算書に関する注記）

項目	第16期	第17期
	自 平成28年6月 1日 至 平成29年5月31日	自 平成29年6月 1日 至 平成30年5月31日
分配金の計算過程		
費用控除後の配当等収益額	0円	0円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円	0円
収益調整金額	1,123,617円	901,068円
分配準備積立金額	1,071,954円	808,155円
当ファンドの分配対象収益額	2,195,571円	1,709,223円
当ファンドの期末残存口数	90,999,423口	70,842,058口
1万口当たり収益分配対象額	241.26円	241.27円
1万口当たり分配金額	0円	0円
収益分配金金額	0円	0円

## （金融商品に関する注記）

項目	第16期 自 平成28年6月 1日 至 平成29年5月31日	第17期 自 平成29年6月 1日 至 平成30年5月31日
1.金融商品の状況に関する事項	<p>・金融商品に対する取組方針 当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。</p> <p>・金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク 当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。</p> <p>当ファンドが保有する有価証券の詳細は「(有価証券に関する注記)」に記載しております。これらは、価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、及び流動性リスクに晒されております。</p> <p>また、当ファンドは、有価証券の為替変動リスクの低減を目的として、為替予約取引を行っております。</p> <p>なお、当計算期間末日において、為替予約取引の残高はありません。</p> <p>・金融商品に係るリスク管理体制 委託会社においてはリスク管理に関する委員会を設け、信託約款等の遵守状況や、市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等のモニタリングを行い、その結果に基づき運用部門その他関連部署への管理を行っております。</p> <p>・金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。</p> <p>・貸借対照表計上額、時価及びその差額 貸借対照表上の金融商品は、原則としてすべて時価評価されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p> <p>・時価の算定方法 投資信託受益証券、投資証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。</p> <p>コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>	<p>・金融商品に対する取組方針 同左</p> <p>・金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク 当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭信託等の金銭債権及び金銭債務であります。</p> <p>当ファンドが保有する有価証券の詳細は「(有価証券に関する注記)」に記載しております。これらは、価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、及び流動性リスクに晒されております。</p> <p>・金融商品に係るリスク管理体制 複数の部署において信託約款等の遵守状況、市場リスク、信用リスク、流動性リスク等のモニタリングを行いコンプライアンス委員会において評価しております。信託財産全体としてのリスク管理を、金融商品、リスクの種類ごとに行っております。</p> <p>・金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>・貸借対照表計上額、時価及びその差額 同左</p> <p>・時価の算定方法 投資信託受益証券、投資証券 同左</p> <p>上記以外の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>
2.金融商品の時価等に関する事項		

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

種類	第16期 自 平成28年6月 1日 至 平成29年5月31日	第17期 自 平成29年6月 1日 至 平成30年5月31日
	損益に含まれた評価差額（円）	損益に含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	437,077	1,090,736
投資証券	1,983,892	127,816
合計	2,420,969	962,920

## （デリバティブ取引に関する注記）

## 取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

## （1口当たり情報）

項目	第16期 （平成29年5月31日現在）	第17期 （平成30年5月31日現在）
1口当たり純資産額	0.6851円	0.605円
(1万口当たり)	(6,851円)	(6,050円)

## (4) 【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託 受益証券	日本円	シングルアルファ・ファンド（適格機関投資 家私募）	21,520,728	23,190,736	
	日本円小計		21,520,728	23,190,736	
投資信託受益証券合計				23,190,736	
投資証券	米ドル	iシェアーズ・コア米国総合債券ETF	520	55,406.00	
		iシェアーズ世界国債（除く米国）ETF	2,380	117,000.80	
	米ドル小計		2,900	172,406.80 (18,740,619)	
投資証券合計				18,740,619 (18,740,619)	
合計				41,931,355 (18,740,619)	

(注) 投資信託受益証券、投資証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

有価証券明細表注記

(注1) 通貨の表示については、その通貨の表記単位で表示しています。

(注2) 通貨種類毎の小計欄の( )内は邦貨換算額であります。

(注3) 合計欄は邦貨額で表示しており、( )内は外貨建有価証券の邦貨換算額を内書しています。

(注4) 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入投資証券 時価比率	合計金額に 対する比率
米ドル	投資証券 2銘柄	100.0%	100.0%

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 【ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・バランス型】

## ( 1 ) 【貸借対照表】

( 単位：円 )

区分	第16期 (平成29年 5月31日現在)	第17期 (平成30年 5月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	-	19,451,737
金銭信託	-	11,775,289
コール・ローン	8,803,282	-
投資信託受益証券	119,312,254	34,418,926
投資証券	72,057,217	97,043,019
流動資産合計	200,172,753	162,688,971
資産合計	200,172,753	162,688,971
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	-	19,451,737
未払受託者報酬	76,333	38,638
未払委託者報酬	1,908,284	965,879
未払利息	24	-
その他未払費用	2,441,977	2,496,044
流動負債合計	4,426,618	22,952,298
負債合計	4,426,618	22,952,298
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	178,833,095	128,681,469
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金 ( )	16,913,040	11,055,204
( 分配準備積立金 )	41,962,378	29,810,337
元本等合計	195,746,135	139,736,673
純資産合計	195,746,135	139,736,673
負債純資産合計	200,172,753	162,688,971

## （２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

区分	第16期		第17期	
	自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日		自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日	
<b>営業収益</b>				
受取配当金		4,049,767		1,486,331
受取利息		-		548
有価証券売買等損益		14,626,748		7,661,035
為替差損益		503,324		2,359,707
その他収益		-		637
<b>営業収益合計</b>		<b>19,179,839</b>		<b>6,788,844</b>
<b>営業費用</b>				
支払利息		6,841		4,479
受託者報酬		154,268		86,761
委託者報酬		3,856,506		2,168,891
その他費用		4,932,155		5,245,740
<b>営業費用合計</b>		<b>8,949,770</b>		<b>7,505,871</b>
営業利益又は営業損失（ ）		10,230,069		717,027
経常利益又は経常損失（ ）		10,230,069		717,027
当期純利益又は当期純損失（ ）		10,230,069		717,027
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		4,321,816		385,519
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		17,682,938		16,913,040
剰余金増加額又は欠損金減少額		668,607		144,217
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		668,607		144,217
剰余金減少額又は欠損金増加額		7,346,758		4,899,507
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		7,346,758		4,899,507
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		16,913,040		11,055,204

## (3)【注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第17期	
	自平成29年6月1日 至平成30年5月31日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券及び投資証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券及び投資証券の基準価額に基づいて評価しております。	
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。	

## (貸借対照表に関する注記)

項目	第16期		第17期	
	(平成29年5月31日現在)		(平成30年5月31日現在)	
1. 投資信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額及び期中一部解約元本額	期首元本額	284,271,945円	期首元本額	178,833,095円
	期中追加設定元本額	14,086,010円	期中追加設定元本額	1,655,865円
	期中一部解約元本額	119,524,860円	期中一部解約元本額	51,807,491円
2. 計算期間末日における受益権の総数		178,833,095口		128,681,469口

## (損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	第16期		第17期	
	自平成28年6月1日 至平成29年5月31日		自平成29年6月1日 至平成30年5月31日	
分配金の計算過程				
費用控除後の配当等収益額		1,572,495円		0円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額		0円		0円
収益調整金額		34,330,339円		25,087,102円
分配準備積立金額		40,389,883円		29,810,337円
当ファンドの分配対象収益額		76,292,717円		54,897,439円
当ファンドの期末残存口数		178,833,095口		128,681,469口
1万口当たり収益分配対象額		4,266.13円		4,266.15円
1万口当たり分配金額		0円		0円
収益分配金金額		0円		0円



## （金融商品に関する注記）

項目	第16期 自 平成28年6月 1日 至 平成29年5月31日	第17期 自 平成29年6月 1日 至 平成30年5月31日
1.金融商品の状況に関する事項	<p>・金融商品に対する取組方針 当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。</p> <p>・金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク 当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。</p> <p>当ファンドが保有する有価証券の詳細は「(有価証券に関する注記)」に記載しております。これらは、価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、及び流動性リスクに晒されております。</p> <p>また、当ファンドは、有価証券の為替変動リスクの低減を目的として、為替予約取引を行っております。</p> <p>なお、当計算期間末日において、為替予約取引の残高はありません。</p> <p>・金融商品に係るリスク管理体制 委託会社においてはリスク管理に関する委員会を設け、信託約款等の遵守状況や、市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等のモニタリングを行い、その結果に基づき運用部門その他関連部署への管理を行っております。</p> <p>・金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。</p> <p>・貸借対照表計上額、時価及びその差額 貸借対照表上の金融商品は、原則としてすべて時価評価されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p> <p>・時価の算定方法 投資信託受益証券、投資証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。</p> <p>コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>	<p>・金融商品に対する取組方針 同左</p> <p>・金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク 当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭信託等の金銭債権及び金銭債務であります。</p> <p>当ファンドが保有する有価証券の詳細は「(有価証券に関する注記)」に記載しております。これらは、価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、及び流動性リスクに晒されております。</p> <p>・金融商品に係るリスク管理体制 複数の部署において信託約款等の遵守状況、市場リスク、信用リスク、流動性リスク等のモニタリングを行いコンプライアンス委員会において評価しております。信託財産全体としてのリスク管理を、金融商品、リスクの種類ごとに行っております。</p> <p>・金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>・貸借対照表計上額、時価及びその差額 同左</p> <p>・時価の算定方法 投資信託受益証券、投資証券 同左</p> <p>上記以外の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>
2.金融商品の時価等に関する事項		

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

種類	第16期 自 平成28年6月 1日 至 平成29年5月31日	第17期 自 平成29年6月 1日 至 平成30年5月31日
	損益に含まれた評価差額（円）	損益に含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	11,524,720	1,318,926
投資証券	3,711,218	4,087,920
合計	7,813,502	5,406,846

## （デリバティブ取引に関する注記）

## 取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

## （1口当たり情報）

項目	第16期 （平成29年5月31日現在）	第17期 （平成30年5月31日現在）
1口当たり純資産額	1.0946円	1.0859円
(1万口当たり)	(10,946円)	(10,859円)

## (4) 【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託 受益証券	日本円	シングルアルファ・ファンド（適格機関投資家私募）	31,940,355	34,418,926	
	日本円小計		31,940,355	34,418,926	
投資信託受益証券合計				34,418,926	
投資証券	米ドル	iシェアーズ・コア米国総合債券ETF	1,457	155,243.35	
		iシェアーズMSCIワールドUCITS マーケットE	13,680	614,026.80	
		iシェアーズ世界国債（除く米国）ETF	2,512	123,489.92	
	米ドル小計		17,649	892,760.07 (97,043,019)	
投資証券合計				97,043,019 (97,043,019)	
合計				131,461,945 (97,043,019)	

(注) 投資信託受益証券、投資証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

有価証券明細表注記

(注1) 通貨の表示については、その通貨の表記単位で表示しています。

(注2) 通貨種類毎の小計欄の( )内は邦貨換算額であります。

(注3) 合計欄は邦貨額で表示しており、( )内は外貨建有価証券の邦貨換算額を内書しています。

(注4) 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入投資証券 時価比率	合計金額に 対する比率
米ドル	投資証券 3銘柄	100.0%	100.0%

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 【ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・積極型】

## ( 1 ) 【貸借対照表】

( 単位：円 )

区分	第16期 (平成29年 5月31日現在)	第17期 (平成30年 5月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	-	64,920,172
金銭信託	-	21,807,036
コール・ローン	15,342,652	-
投資信託受益証券	494,957,515	52,896,218
投資証券	29,936,196	356,166,963
流動資産合計	540,236,363	495,790,389
資産合計	540,236,363	495,790,389
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	-	64,920,172
未払解約金	-	6,039,061
未払受託者報酬	184,753	120,177
未払委託者報酬	4,618,811	3,004,455
未払利息	42	-
その他未払費用	2,799,992	3,452,864
流動負債合計	7,603,598	77,536,729
負債合計	7,603,598	77,536,729
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	423,503,470	313,425,165
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金 ( )	109,129,295	104,828,495
( 分配準備積立金 )	163,027,219	123,907,337
元本等合計	532,632,765	418,253,660
純資産合計	532,632,765	418,253,660
負債純資産合計	540,236,363	495,790,389

## （２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

区分	第16期		第17期	
	自	平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日	自	平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日
<b>営業収益</b>				
受取配当金		2,977,368		4,051,447
受取利息		-		1,137
有価証券売買等損益		77,950,234		49,926,711
為替差損益		-		10,071,967
その他収益		-		2,616
営業収益合計		80,927,602		43,909,944
<b>営業費用</b>				
支払利息		11,983		10,319
受託者報酬		361,614		254,798
委託者報酬		9,040,407		6,369,971
その他費用		5,532,023		6,842,314
営業費用合計		14,946,027		13,477,402
営業利益又は営業損失（ ）		65,981,575		30,432,542
経常利益又は経常損失（ ）		65,981,575		30,432,542
当期純利益又は当期純損失（ ）		65,981,575		30,432,542
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		18,102,626		6,739,032
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		86,493,974		109,129,295
剰余金増加額又は欠損金減少額		5,104,043		1,768,399
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		5,104,043		1,768,399
剰余金減少額又は欠損金増加額		30,347,671		29,762,709
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		30,347,671		29,762,709
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		109,129,295		104,828,495

## (3)【注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第17期	
	自平成29年6月1日 至平成30年5月31日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券及び投資証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券及び投資証券の基準価額に基づいて評価しております。	
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。	

## (貸借対照表に関する注記)

項目	第16期		第17期	
	(平成29年5月31日現在)		(平成30年5月31日現在)	
1. 投資信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額及び期中一部解約元本額	期首元本額	599,845,686円	期首元本額	423,503,470円
	期中追加設定元本額	34,040,129円	期中追加設定元本額	5,358,981円
	期中一部解約元本額	210,382,345円	期中一部解約元本額	115,437,286円
2. 計算期間末日における受益権の総数		423,503,470口		313,425,165口

## (損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	第16期		第17期	
	自平成28年6月1日 至平成29年5月31日		自平成29年6月1日 至平成30年5月31日	
分配金の計算過程				
費用控除後の配当等収益額		2,200,518円		2,488,294円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額		0円		2,733,419円
収益調整金額		176,607,904円		132,670,969円
分配準備積立金額		160,826,701円		118,685,624円
当ファンドの分配対象収益額		339,635,123円		256,578,306円
当ファンドの期末残存口数		423,503,470口		313,425,165口
1万口当たり収益分配対象額		8,019.63円		8,186.27円
1万口当たり分配金額		0円		0円
収益分配金金額		0円		0円

## (金融商品に関する注記)

項目	第16期 自 平成28年6月 1日 至 平成29年5月31日	第17期 自 平成29年6月 1日 至 平成30年5月31日
1.金融商品の状況に関する事項	<p>・金融商品に対する取組方針 当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。</p> <p>・金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク 当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「(有価証券に関する注記)」に記載しております。これらは、価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、及び流動性リスクに晒されております。</p> <p>・金融商品に係るリスク管理体制 委託会社においてはリスク管理に関する委員会を設け、信託約款等の遵守状況や、市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等のモニタリングを行い、その結果に基づき運用部門その他関連部署への管理を行っております。</p> <p>・金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p>	<p>・金融商品に対する取組方針 同左</p> <p>・金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク 当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭信託等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「(有価証券に関する注記)」に記載しております。これらは、価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、及び流動性リスクに晒されております。</p> <p>・金融商品に係るリスク管理体制 複数の部署において信託約款等の遵守状況、市場リスク、信用リスク、流動性リスク等のモニタリングを行いコンプライアンス委員会において評価しております。信託財産全体としてのリスク管理を、金融商品、リスクの種類ごとに行っております。</p> <p>・金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 同左</p>
2.金融商品の時価等に関する事項	<p>・貸借対照表計上額、時価及びその差額 貸借対照表上の金融商品は、原則としてすべて時価評価されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p> <p>・時価の算定方法 投資信託受益証券、投資証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>	<p>・貸借対照表計上額、時価及びその差額 同左</p> <p>・時価の算定方法 投資信託受益証券、投資証券 同左</p> <p>上記以外の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

種類	第16期 自 平成28年6月 1日 至 平成29年5月31日	第17期 自 平成29年6月 1日 至 平成30年5月31日
	損益に含まれた評価差額（円）	損益に含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	58,508,076	2,096,218
投資証券	3,755,422	25,663,994
合計	54,752,654	27,760,212

## （デリバティブ取引に関する注記）

## 取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

## （1口当たり情報）

項目	第16期 （平成29年5月31日現在）	第17期 （平成30年5月31日現在）
1口当たり純資産額 (1万口当たり)	1.2577円 (12,577円)	1.3345円 (13,345円)



## (4) 【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

## 株式

該当事項はありません。

## 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託 受益証券	日本円	シングルアルファ・ファンド（適格機関投資 家私募）	49,087,062	52,896,218	
	日本円小計		49,087,062	52,896,218	
投資信託受益証券合計				52,896,218	
投資証券	米ドル	iシェアーズMSCIワールドUCITS マーケットE	73,000	3,276,605	
	米ドル小計		73,000	3,276,605 (356,166,963)	
投資証券合計				356,166,963 (356,166,963)	
合計				409,063,181 (356,166,963)	

(注) 投資信託受益証券、投資証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

## 有価証券明細表注記

(注1) 通貨の表示については、その通貨の表記単位で表示しています。

(注2) 通貨種類毎の小計欄の( )内は邦貨換算額であります。

(注3) 合計欄は邦貨額で表示しており、( )内は外貨建有価証券の邦貨換算額を内書しています。

(注4) 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入投資証券 時価比率	合計金額に 対する比率
米ドル	投資証券 1銘柄	100.0%	100.0%

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

**【中間財務諸表】**

- (1) 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条の3及び第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。  
なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- (2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間計算期間（平成30年6月1日から平成30年11月30日まで）の中間財務諸表について、イデア監査法人による中間監査を受けております。

## 【ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・安定型】

## ( 1 ) 【中間貸借対照表】

( 単位 : 円 )

区分	前計算期間末 (平成30年 5月31日現在)	当中間計算期間末 (平成30年11月30日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	12,256	-
金銭信託	3,265,649	1,515,621
投資信託受益証券	23,190,736	18,794,161
投資証券	18,740,619	17,512,097
未収入金	-	1,700,000
流動資産合計	45,209,260	39,521,879
資産合計	45,209,260	39,521,879
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払解約金	-	1,718,914
未払受託者報酬	11,903	11,500
未払委託者報酬	297,592	287,602
その他未払費用	2,037,649	356,652
流動負債合計	2,347,144	2,374,668
負債合計	2,347,144	2,374,668
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	70,842,058	62,976,265
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金 ( )	27,979,942	25,829,054
( 分配準備積立金 )	808,155	685,101
元本等合計	42,862,116	37,147,211
純資産合計	42,862,116	37,147,211
負債純資産合計	45,209,260	39,521,879

## （２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

区分	前中間計算期間		当中間計算期間	
	自 平成29年 6月 1日 至 平成29年11月30日		自 平成30年 6月 1日 至 平成30年11月30日	
<b>営業収益</b>				
受取配当金		392,470		71,122
受取利息		-		285
有価証券売買等損益		2,803,432		1,293,792
為替差損益		222,532		796,272
営業収益合計		2,188,430		426,113
<b>営業費用</b>				
支払利息		1,342		-
受託者報酬		15,490		11,500
委託者報酬		387,182		287,602
その他費用		2,372,816		364,864
営業費用合計		2,776,830		663,966
営業利益又は営業損失（ ）		4,965,260		1,090,079
経常利益又は経常損失（ ）		4,965,260		1,090,079
中間純利益又は中間純損失（ ）		4,965,260		1,090,079
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）		920,683		143,098
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		28,657,000		27,979,942
剰余金増加額又は欠損金減少額		6,426,397		4,433,715
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		6,426,397		4,433,715
剰余金減少額又は欠損金増加額		277,434		1,335,846
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		277,434		1,335,846
分配金		-		-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）		26,552,614		25,829,054

## （３）【中間注記表】

## （重要な会計方針に係る事項に関する注記）

項目	当中間計算期間	
	自 平成30年 6月 1日 至 平成30年11月30日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券及び投資証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券及び投資証券の基準価額に基づいて評価しております。	
2. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。	

## （中間貸借対照表に関する注記）

項目	前計算期間末 (平成30年 5月31日現在)		当中間計算期間末 (平成30年11月30日現在)			
	1. 投資信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額及び期中一部解約元本額	期首元本額 90,999,423円	期中追加設定元本額 2,415,424円	期中一部解約元本額 22,572,789円	期首元本額 70,842,058円	期中追加設定元本額 3,358,077円
2. 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は27,979,942円であります。			中間貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は25,829,054円あります。		
3. 中間計算期間末日における受益権の総数	70,842,058口		62,976,265口			

## （中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

前中間計算期間 自 平成29年6月1日 至 平成29年11月30日	当中間計算期間 自 平成30年6月1日 至 平成30年11月30日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

## （金融商品に関する注記）

項目	前計算期間末 (平成30年 5月31日現在)		当中間計算期間末 (平成30年11月30日現在)	
	金融商品の時価等に関する事項	・ 貸借対照表計上額、時価及びその差額 貸借対照表上の金融商品は、原則としてすべて時価評価されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 ・ 時価の算定方法		・ 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額 中間貸借対照表上の金融商品は、原則としてすべて時価評価されているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 ・ 時価の算定方法

	投資信託受益証券、投資証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。 上記以外の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	同左
--	---	----

## （デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## （1口当たり情報）

項目	前計算期間末 （平成30年 5月31日現在）	当中間計算期間末 平成30年11月30日現在
1口当たり純資産額	0.605円	0.5899円
(1万口当たり純資産額)	(6,050円)	(5,899円)

## 【ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・バランス型】

## ( 1 ) 【中間貸借対照表】

( 単位：円 )

区分	前計算期間末 (平成30年 5月31日現在)	当中間計算期間末 (平成30年11月30日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	19,451,737	34,149
金銭信託	11,775,289	4,227,489
投資信託受益証券	34,418,926	34,181,790
投資証券	97,043,019	96,118,015
流動資産合計	162,688,971	134,561,443
資産合計	162,688,971	134,561,443
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	19,451,737	-
未払受託者報酬	38,638	37,646
未払委託者報酬	965,879	941,160
その他未払費用	2,496,044	2,160,177
流動負債合計	22,952,298	3,138,983
負債合計	22,952,298	3,138,983
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	128,681,469	123,258,192
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金 ( )	11,055,204	8,164,268
( 分配準備積立金 )	29,810,337	28,202,763
元本等合計	139,736,673	131,422,460
純資産合計	139,736,673	131,422,460
負債純資産合計	162,688,971	134,561,443

## （２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

区分	前中間計算期間		当中間計算期間	
	自 平成29年 6月 1日 至 平成29年11月30日		自 平成30年 6月 1日 至 平成30年11月30日	
<b>営業収益</b>				
受取配当金		947,326		962,729
受取利息		-		907
有価証券売買等損益		5,015,803		4,345,441
為替差損益		72,187		4,225,513
その他収益		637		-
営業収益合計		5,891,579		843,708
<b>営業費用</b>				
支払利息		3,509		-
受託者報酬		48,123		37,646
委託者報酬		1,203,012		941,160
その他費用		2,711,045		2,176,668
営業費用合計		3,965,689		3,155,474
営業利益又は営業損失（ ）		1,925,890		2,311,766
経常利益又は経常損失（ ）		1,925,890		2,311,766
中間純利益又は中間純損失（ ）		1,925,890		2,311,766
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）		280,046		125,284
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		16,913,040		11,055,204
剰余金増加額又は欠損金減少額		982		148,004
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		982		148,004
剰余金減少額又は欠損金増加額		3,036,668		601,890
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		3,036,668		601,890
分配金		-		-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）		15,523,198		8,164,268



## (3) 【中間注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当中間計算期間	
	自 平成30年 6月 1日 至 平成30年11月30日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券及び投資証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券及び投資証券の基準価額に基づいて評価しております。	
2. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。	

## (中間貸借対照表に関する注記)

項目	前計算期間末	当中間計算期間末
	(平成30年 5月31日現在)	(平成30年11月30日現在)
1. 投資信託財産に係る 期首元本額、期中追加 設定元本額及び期中一 部解約元本額	期首元本額 178,833,095円 期中追加設定元本額 1,655,865円 期中一部解約元本額 51,807,491円	期首元本額 128,681,469円 期中追加設定元本額 1,571,132円 期中一部解約元本額 6,994,409円
2. 中間計算期間末日に おける受益権の総数	128,681,469口	123,258,192口

## (中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

前中間計算期間	当中間計算期間
自 平成29年6月1日 至 平成29年11月30日	自 平成30年6月1日 至 平成30年11月30日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

## (金融商品に関する注記)

項目	前計算期間末	当中間計算期間末
	(平成30年 5月31日現在)	(平成30年11月30日現在)
金融商品の時価等に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸借対照表計上額、時価及びその差額</li> </ul> 貸借対照表上の金融商品は、原則としてすべて時価評価されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>時価の算定方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間貸借対照表計上額、時価及びその差額</li> </ul> 中間貸借対照表上の金融商品は、原則としてすべて時価評価されているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>時価の算定方法</li> </ul>

	投資信託受益証券、投資証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。 上記以外の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	同左
--	---	----

## （デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## （1口当たり情報）

項目	前計算期間末 (平成30年 5月31日現在)	当中間計算期間末 平成30年11月30日現在
1口当たり純資産額	1.0859円	1.0662円
(1万口当たり純資産額)	(10,859円)	(10,662円)

## 【ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・積極型】

## ( 1 ) 【中間貸借対照表】

( 単位：円 )

区分	前計算期間末 (平成30年 5月31日現在)	当中間計算期間末 (平成30年11月30日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	64,920,172	1,298,012
金銭信託	21,807,036	12,485,716
投資信託受益証券	52,896,218	46,198,181
投資証券	356,166,963	356,498,627
流動資産合計	495,790,389	416,480,536
資産合計	495,790,389	416,480,536
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	64,920,172	-
未払解約金	6,039,061	39,150
未払受託者報酬	120,177	115,175
未払委託者報酬	3,004,455	2,879,336
その他未払費用	3,452,864	2,822,537
流動負債合計	77,536,729	5,856,198
負債合計	77,536,729	5,856,198
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	313,425,165	308,503,661
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金 ( )	104,828,495	102,120,677
( 分配準備積立金 )	123,907,337	119,177,900
元本等合計	418,253,660	410,624,338
純資産合計	418,253,660	410,624,338
負債純資産合計	495,790,389	416,480,536

## （２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

区分	前中間計算期間		当中間計算期間	
	自	平成29年 6月 1日 至 平成29年11月30日	自	平成30年 6月 1日 至 平成30年11月30日
<b>営業収益</b>				
受取配当金		2,340,233		3,994,290
受取利息		8		2,255
有価証券売買等損益		40,376,134		14,375,370
為替差損益		1,920,304		15,533,552
その他収益		2,616		-
営業収益合計		40,798,687		5,154,727
<b>営業費用</b>				
支払利息		8,946		-
受託者報酬		134,621		115,175
委託者報酬		3,365,516		2,879,336
その他費用		3,319,845		2,867,690
営業費用合計		6,828,928		5,862,201
営業利益又は営業損失（ ）		33,969,759		707,474
経常利益又は経常損失（ ）		33,969,759		707,474
中間純利益又は中間純損失（ ）		33,969,759		707,474
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）		3,276,987		562,700
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		109,129,295		104,828,495
剰余金増加額又は欠損金減少額		6,778		2,611,218
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		6,778		2,611,218
剰余金減少額又は欠損金増加額		20,812,867		4,048,862
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		20,812,867		4,048,862
分配金		-		-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）		119,015,978		102,120,677

## (3) 【中間注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当中間計算期間	
	自 平成30年 6月 1日 至 平成30年11月30日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券及び投資証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券及び投資証券の基準価額に基づいて評価しております。	
2. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。	

## (中間貸借対照表に関する注記)

項目	前計算期間末 (平成30年 5月31日現在)		当中間計算期間末 (平成30年11月30日現在)	
	1. 投資信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額及び期中一部解約元本額	期首元本額	423,503,470円	期首元本額
	期中追加設定元本額	5,358,981円	期中追加設定元本額	7,168,650円
	期中一部解約元本額	115,437,286円	期中一部解約元本額	12,090,154円
2. 中間計算期間末日における受益権の総数		313,425,165口		308,503,661口

## (中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

前中間計算期間 自 平成29年6月1日 至 平成29年11月30日	当中間計算期間 自 平成30年6月1日 至 平成30年11月30日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

## (金融商品に関する注記)

項目	前計算期間末 (平成30年 5月31日現在)		当中間計算期間末 (平成30年11月30日現在)	
	金融商品の時価等に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸借対照表計上額、時価及びその差額</li> </ul> 貸借対照表上の金融商品は、原則としてすべて時価評価されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。		<ul style="list-style-type: none"> <li>中間貸借対照表計上額、時価及びその差額</li> </ul> 中間貸借対照表上の金融商品は、原則としてすべて時価評価されているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>時価の算定方法</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>時価の算定方法</li> </ul>	

	投資信託受益証券、投資証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。 上記以外の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	同左
--	---	----

## （デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## （1口当たり情報）

項目	前計算期間末 （平成30年 5月31日現在）	当中間計算期間末 平成30年11月30日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.3345円 (13,345円)	1.331円 (13,310円)

## 2【ファンドの現況】

以下のファンドの現況は2018年12月末日現在です。

### 【ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・安定型】

#### 【純資産額計算書】

資産総額	36,605,135円
負債総額	94,158円
純資産総額（ - ）	36,510,977円
発行済口数	63,347,254口
1口当たり純資産額（ / ）	0.5764円

### 【ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・バランス型】

#### 【純資産額計算書】

資産総額	122,473,250円
負債総額	467,912円
純資産総額（ - ）	122,005,338円
発行済口数	123,304,937口
1口当たり純資産額（ / ）	0.9895円

### 【ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・積極型】

#### 【純資産額計算書】

資産総額	365,816,340円
負債総額	855,092円
純資産総額（ - ）	364,961,248円
発行済口数	306,359,846口
1口当たり純資産額（ / ）	1.1913円

## 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

### （1）名義書換

受益者は、委託会社がやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求を行わないものとします。

### （2）受益者に対する特典

該当事項はありません。

### （3）譲渡制限の内容

譲渡制限はありません。

#### 受益権の譲渡

- ・受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。
- ・前述の申請のある場合には、振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社債、株式等の振替に関する法律の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。
- ・前述の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合などにおいて、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

#### 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

### （4）受益証券の再発行

受益者は、委託会社がやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合を除き、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

### （5）受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社債、株式等の振替に関する法律に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

### （6）質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、解約請求の受付、解約金および償還金の支払いなどについては、約款の規定によるほか、民法その他の法令などにしたがって取り扱われます。





- d. 「コンプライアンス委員会」は、原則として月次で運用実績・パフォーマンスを分析評価し、必要に応じて運用リスク管理案等を「運用委員会」へ上程します。
- e. 「運用委員会」は、常勤取締役、常勤監査役、運用部長、コンプライアンス部長、業務管理部長、その他代表取締役指名された者で構成し、原則として月次で開催される他、必要に応じて臨時で開催されます。

2018年12月末現在

## 2【事業の内容及び営業の概況】

- ・「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として投資信託の運用および投資一任契約に基づく運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。
- ・2018年12月末現在、委託会社が、運用する投資信託（親投資信託は除きます。）は以下のとおりです。

ファンドの種類	本数	純資産総額
追加型株式投資信託	21	13,215,305,539 円
単位型株式投資信託	21	5,531,750,084 円
合計	42	18,747,055,623 円

### 3 【委託会社等の経理状況】

#### 1. 財務諸表の作成方法について

委託会社であるファイブスター投信投資顧問株式会社（以下「当社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。

当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号。）並びに同規則第38条及び第57条に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号。）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表及び中間財務諸表の金額は、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。

#### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第9期事業年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の財務諸表ならびに第10期中間会計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）の中間財務諸表について、イデア監査法人の監査及び中間監査を受けております。

## (1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 平成29年3月31日	当事業年度 平成30年3月31日
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	97,887	174,324
前払費用	2,089	1,422
未収運用受託報酬	10,341	10,466
未収投資助言報酬	4,917	4,769
未収委託者報酬	33,824	53,064
未収消費税等	745	
立替金	9,949	15,459
繰延税金資産	5,670	9,882
1年内回収予定の役員に対する長期貸付金		1,200
その他		2
<b>流動資産合計</b>	165,426	270,591
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	1,241	1,498
器具備品	185	337
その他		324
<b>有形固定資産合計</b>	1,426	2,160
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	5,893	4,125
<b>無形固定資産合計</b>	5,893	4,125
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券		999
役員に対する長期貸付金		8,800
長期前払費用	616	
差入保証金	4,755	4,755
<b>投資その他の資産合計</b>	5,371	14,555
<b>固定資産合計</b>	12,691	20,841
<b>資産合計</b>	178,118	291,432
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
預り金	4,043	9,472
未払金		3,150
未払手数料	15,881	27,164
未払費用	35,980	18,442
未払法人税等	5,711	16,409
未払消費税等		4,405
賞与引当金	5,174	8,466
その他	3,006	17,410
<b>流動負債合計</b>	69,797	104,922
<b>負債合計</b>	69,797	104,922
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	211,750	211,750
資本剰余金		
資本準備金	74,750	74,750
<b>資本剰余金合計</b>	74,750	74,750
<b>利益剰余金</b>		

その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	178,179	99,989
利益剰余金合計	178,179	99,989
株主資本合計	108,320	186,510
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		0
評価・換算差額等合計		0
純資産合計	108,320	186,510
負債純資産合計	178,118	291,432

## (2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業収益		
運用受託報酬	146,937	258,245
投資助言報酬	22,084	17,096
委託者報酬	175,997	288,738
営業収益合計	345,019	564,081
営業費用		
支払手数料	83,628	142,958
広告宣伝費	756	308
調査費	80,607	64,362
調査費	17,322	20,261
委託調査費	63,285	44,101
営業雑経費	3,889	4,112
通信費	1,531	1,875
協会費	2,357	2,144
諸会費		92
営業費用合計	168,881	211,742
一般管理費		
給料	112,712	208,399
役員報酬	30,200	41,700
給与手当	66,178	119,132
役員賞与	3,900	17,880
賞与	7,260	21,221
賞与引当金繰入額	5,174	8,466
福利厚生費	10,340	12,928
交際費	551	1,034
旅費交通費	2,774	5,112
租税公課	2,435	4,827
不動産賃借料	7,588	7,663
固定資産減価償却費	2,295	2,183
諸経費	14,613	15,655
一般管理費合計	153,310	257,803
営業利益	22,827	94,535
営業外収益		
受取利息	0	1
その他	30	3
営業外収益合計	30	4
経常利益	22,858	94,539
特別損失		
投資事業整理損		1 3,150
貸倒損失		1,944
固定資産除却損		0
特別損失合計		5,095
税引前当期純利益	22,858	89,444
法人税、住民税及び事業税	4,103	15,465
法人税等調整額	5,670	4,211
法人税等合計	1,567	11,254
当期純利益	24,425	78,190

## (3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	211,750	74,750	74,750	202,604	202,604	83,895	83,895
当期変動額							
当期純利益				24,425	24,425	24,425	24,425
当期変動額合計	-	-	-	24,425	24,425	24,425	24,425
当期末残高	211,750	74,750	74,750	178,179	178,179	108,320	108,320

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	211,750	74,750	74,750	178,179	178,179	108,320
当期変動額						
当期純利益				78,190	78,190	78,190
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計				78,190	78,190	78,190
当期末残高	211,750	74,750	74,750	99,989	99,989	186,510

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高			108,320
当期変動額			
当期純利益			78,190
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	0	0
当期変動額合計	0	0	78,190
当期末残高	0	0	186,510

## 重要な会計方針

### 1．有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

### 2．固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	8～15年
器具備品	4～10年

#### (2) 無形固定資産

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

#### (3) 長期前払費用

定額法を採用しております。

### 3．引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当期負担額を計上しております。

### 4．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

#### (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。



## 注記事項

## （貸借対照表関係）

## 1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 （平成29年3月31日）	当事業年度 （平成30年3月31日）
建物	1,001千円	1,177千円
器具備品	2,705千円	2,214千円

## （損益計算書関係）

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

## 1 投資事業整理損

投信投資顧問業務の運営・管理に関するコンサルティング契約を整理したことにより、契約を解除した際に発生したものであります。

## （株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

## 1. 発行済株式に関する事項

	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式（株）	5,780			5,780

## 2. 自己株式に関する事項

該当なし

## 3. 新株予約権等に関する事項

内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数（株）				当事業年度末残高
		当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末	
ストック・オプションとしての第2回新株予約権						
ストック・オプションとしての第3回新株予約権						
ストック・オプションとしての第4回新株予約権						
ストック・オプションとしての第5回新株予約権						

（注）第4回及び第5回新株予約権は、権利行使期間の初日が到来していません。

## 4. 配当に関する事項

該当なし

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

## 1. 発行済株式に関する事項

	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式（株）	5,780			5,780

## 2. 自己株式に関する事項

該当なし

## 3. 新株予約権等に関する事項

内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数（株）				当事業年度末残高
		当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末	
ストック・オプションとしての第2回新株予約権						
ストック・オプションとしての第3回新株予約権						
ストック・オプションとしての第4回新株予約権						
ストック・オプションとしての第5回新株予約権						
ストック・オプションとしての第6回新株予約権						

（注）第5回及び第6回新株予約権は、権利行使期間の初日が到来していません。

## 4. 配当に関する事項

該当なし

（リース取引関係）

前事業年度（自 平成28年4月1日至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成29年4月1日至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

## （金融商品関係）

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### （1）金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業を営んでおります。資金運用については、一時的な余資は有金利預金により、通常の取引条件から著しく乖離していないことを検証した上で行ってまいります。

また、当社設定私募投信の当初運用資金として、有価証券を取得しております。

#### （2）金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収運用受託報酬及び未収投資助言報酬は、投資一任契約及び投資助言契約に基づき、契約資産額より受け入れる基本報酬額のうち、未収分を計上した金額であり、契約資産額は証券会社において分別管理されていることから、当社の債権としてのリスクは、認識しておりません。

営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から支払われる委託者に対する報酬の未払い金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されていることから、当社の債権としてのリスクは認識しておりません。

#### （3）金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（預金の預入先や債券の発行体の信用リスク）の管理

預金の預入先や債券の発行体の信用リスクについては、格付けの高い預入先や発行体に限定することにより、リスクの軽減を図っております。

市場リスク（価格変動リスク及び為替変動リスク）の管理

資金運用の状況については、取締役会で定めた基準に従い、代表取締役社長が毎月の定例取締役会において報告をしております。

また市場における価格変動リスクについては、取締役会で定めた基準に従い、業務管理部が定期的に時価をモニタリングし、その中で時価が基準を超える下落となった場合には、速やかに代表取締役社長に報告し、重要であると判断した場合には臨時取締役会を開催し、対処方法について決議を得る体制となっております。

流動性リスクの管理

資金繰りについては、総務部が作成した年度の資金計画を取締役に於いて報告し、それに基づいた管理を行っております。また手元流動性を一定額以上維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

#### （4）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件などを採用することにより、当該価額が変動することがあります。

### 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（(注2)参照）。

前事業年度（平成29年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	97,887	97,887	
(2) 未収運用受託報酬	10,341	10,341	
(3) 未収投資助言報酬	4,917	4,917	
(4) 未収委託者報酬	33,824	33,824	
(5) 未収消費税等	745	745	
(6) 立替金	9,949	9,949	
資産計	157,666	157,666	
(1) 未払手数料	(15,881)	(15,881)	
(2) 未払費用	(35,980)	(35,980)	
負債計	(51,862)	(51,862)	

(\*) 負債に計上されているものは、( )で示しています。

当事業年度（平成30年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	174,324	174,324	
(2) 未収運用受託報酬	10,466	10,466	
(3) 未収投資助言報酬	4,769	4,769	
(4) 未収委託者報酬	53,064	53,064	
(5) 立替金	15,459	15,459	
(6) 役員に対する長期貸付金 (1年内回収予定を含む。)	10,000	10,002	2
(7) 投資有価証券 その他有価証券	999	999	
資産計	269,083	269,085	2
(1) 未払金	(3,150)	(3,150)	
(2) 未払手数料	(27,164)	(27,164)	
(3) 未払費用	(18,442)	(18,442)	
負債計	(48,757)	(48,757)	

(\*) 負債に計上されているものは、( )で示しています。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

前事業年度（平成29年3月31日）

資産 (1) 現金及び預金、(2) 未収運用受託報酬、(3) 未収投資助言報酬、(4) 未収委託者報酬、(5) 未収消費税等、(6)立替金  
これらは短期で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿金額によっております。

負債 (1) 未払手数料、(2)未払費用  
短期で決済され、時価は帳簿価額に等しいことから、当該帳簿価額によっております。

当事業年度（平成30年3月31日）

資産 (1) 現金及び預金、(2) 未収運用受託報酬、(3) 未収投資助言報酬、(4) 未収委託者報酬、(5) 立替金  
これらは短期で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿金額によっております。

(6)役員に対する長期貸付金（1年内回収予定を含む。）  
元利金の合計額を同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。

(7)投資有価証券  
証券投資信託の時価は、決算日における基準価額によっております。

負債 (1) 未払金、(2) 未払手数料、(3) 未払費用

これらは短期で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位:千円)

区分	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
(1) 差入保証金	4,755	4,755

市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、時価開示の対象としておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成29年3月31日）

(単位:千円)

	1年内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
(1) 現金及び預金	97,887			
(2) 未収運用受託報酬	10,341			
(3) 未収投資助言報酬	4,917			
(4) 未収委託者報酬	33,824			
(5) 未収消費税等	745			
(6) 立替金	9,949			
合計	157,666			

当事業年度（平成30年3月31日）

(単位:千円)

	1年内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
(1) 現金及び預金	174,324			
(2) 未収運用受託報酬	10,466			
(3) 未収投資助言報酬	4,769			
(4) 未収委託者報酬	53,064			
(5) 立替金	15,459			
(6) 役員に対する長期貸付金	1,200	4,207	4,592	
合計	259,283	4,207	4,592	

## （有価証券関係）

前事業年度（自 平成28年4月1日至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成29年4月1日至 平成30年3月31日）

## 1. その他有価証券

当事業年度(平成30年3月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	-	-	-
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	999	1,000	0
	小計	999	1,000	0
合計		999	1,000	0

## 2. 売却したその他有価証券

前期事業年度（平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（平成30年3月31日）

該当事項はありません。

## （デリバティブ取引関係）

前事業年度（自 平成28年4月1日至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成29年4月1日至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

## （退職給付関係）

前事業年度（自 平成28年4月1日至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成29年4月1日至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。



## （ストック・オプション等関係）

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

## 1．当該事業年度における費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

## 2．ストック・オプションの内容、規模、変動状況

## （1）ストック・オプションの内容

	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第4回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 2名 当社従業員 4名	当社取締役 1名 当社従業員 4名	当社取締役 1名 当社従業員 6名
株式の種類及び付与数（株）	普通株式240株	普通株式300株	普通株式300株
付与日	平成23年6月24日	平成25年7月25日	平成26年7月25日
権利確定条件	(注)	(注)	(注)
対象勤務期間	自 平成23年5月31日 至 平成25年6月30日	自 平成25年6月27日 至 平成27年7月31日	自 平成26年6月27日 至 平成28年7月31日
権利行使期間	自 平成25年7月1日 至 平成33年5月31日	自 平成27年8月1日 至 平成35年6月30日	自 平成28年8月1日 至 平成36年6月30日

	第5回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 2名 当社監査役 2名 当社従業員 5名
株式の種類及び付与数（株）	普通株式500株
付与日	平成28年3月31日
権利確定条件	(注)
対象勤務期間	自 平成28年3月31日 至 平成30年3月31日
権利行使期間	自 平成30年4月1日 至 平成38年3月10日

(注) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役又は従業員のいずれかの地位を有することを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他新株予約権者の退任又は退職後の権利行使につき正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。

新株予約権者が死亡した場合、新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めないものとする。

新株予約権者は、その割当数の一部又は全部を行使することができる。ただし、新株予約権の1個未満の行使はできないものとする。

## (2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

## ストック・オプションの数

	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第4回新株予約権	第5回新株予約権
権利確定前（株）				
前事業年度末			300	500
付与				
失効				
権利確定			300	
未確定残				500
権利確定後（株）				
前事業年度末	240	300		

権利確定			300	
権利行使				
失効				
未行使残	240	300	300	

## 単価情報

	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第4回新株予約権	第5回新株予約権
権利行使価額（円）	50,000	50,000	50,000	50,000
付与日における公正な 評価単価（円）				

## (3) 当事業年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

該当事項はありません。

## (4) スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的予測は困難であるため、実績の失効数のみを反映させる方法を採用しております。

## (5) スtock・オプションの単位当たりの本源的価値による算定を行った場合の当事業年度末における本源的価値の合計額および当事業年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

当事業年度末における本源的価値の合計 円

当事業年度において行使されたストック・オプションはありません。

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 当該事業年度における費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

2. ストック・オプションの内容、規模、変動状況

(1) ストック・オプションの内容

	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第4回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 2名 当社従業員 4名	当社取締役 1名 当社従業員 4名	当社取締役 1名 当社従業員 6名
株式の種類及び付与数（株）	普通株式240株	普通株式300株	普通株式300株
付与日	平成23年6月24日	平成25年7月25日	平成26年7月25日
権利確定条件	(注)	(注)	(注)
対象勤務期間	自 平成23年5月31日 至 平成25年6月30日	自 平成25年6月27日 至 平成27年7月31日	自 平成26年6月27日 至 平成28年7月31日
権利行使期間	自 平成25年7月1日 至 平成33年5月31日	自 平成27年8月1日 至 平成35年6月30日	自 平成28年8月1日 至 平成36年6月30日

	第5回新株予約権	第6回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 2名 当社監査役 2名 当社従業員 5名	当社取締役 3名 当社従業員 5名
株式の種類及び付与数（株）	普通株式500株	普通株式500株
付与日	平成28年3月31日	平成29年6月9日
権利確定条件	(注)	(注)
対象勤務期間	自 平成28年3月31日 至 平成30年3月31日	自 平成29年6月9日 至 平成31年6月9日
権利行使期間	自 平成30年4月1日 至 平成38年3月10日	自 平成31年6月10日 至 平成39年6月9日

(注) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役又は従業員のいずれかの地位を有することを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他新株予約権者の退任又は退職後の権利行使につき正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。

新株予約権者が死亡した場合、新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めないものとする。

新株予約権者は、その割当数の一部又は全部を行使することができる。ただし、新株予約権の1個未満の行使はできないものとする。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

ストック・オプションの数

	第2回 新株予約権	第3回 新株予約権	第4回 新株予約権	第5回 新株予約権	第6回 新株予約権
権利確定前（株）					
前事業年度末				500	
付与					500
失効					
権利確定				500	
未確定残					500
権利確定後（株）					
前事業年度末	240	300	300		
権利確定				500	
権利行使					

失効					
未行使残	240	300	300	500	

### 単価情報

	第2回 新株予約権	第3回 新株予約権	第4回 新株予約権	第5回 新株予約権	第6回 新株予約権
権利行使価額（円）	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
付与日における公正な 評価単価（円）					

#### (3) 当事業年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法は、当社が未公開企業であるため、ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法を単位当たりの本源的価値の見積によっております。また、単位当たりの本源的価値を算定する基礎となる当社株式の評価方法は、純資産価額方式によっております。その結果、株式の評価額が新株予約権の行使時の払込金額以下となり、単位当たりの本源的価値はゼロ以下となるため、ストック・オプションの公正な評価単価もゼロと算定しております。

#### (4) スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的予測は困難であるため、実績の失効数のみを反映させる方法を採用しております。

#### (5) スtock・オプションの単位当たりの本源的価値による算定を行った場合の当事業年度末における本源的価値の合計額および当事業年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

当事業年度末における本源的価値の合計 円

当事業年度において行使されたストック・オプションはありません。

## （税効果会計関係）

## 1. 繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	599千円	1,424千円
賞与引当金	1,596	2,592
投資事業整理損		765
繰越欠損金	54,129	33,881
繰延税金資産小計	56,326	38,664
評価性引当額	50,655	28,781
繰延税金資産合計	5,670	9,882

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
（調整）		
繰越欠損金の利用	24.9	21.8
評価性引当額の増減	21.2	1.7
交際費等永久に損金に算入されない項目	5.8	6.4
税額控除		1.4
住民税均等割額	1.2	0.3
その他	1.3	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	6.9	12.6

## （セグメント情報等）

## 1. セグメント情報

当社の事業セグメントは、アセットマネジメント事業のみの単一セグメントであり重要性に乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

## 2. 関連情報

## (1) 製品及びサービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## (2) 地域ごとの情報

## 営業収益

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：千円）

日本	欧州	合計
175,997	169,021	345,019

（注）営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

日本	欧州	合計
288,738	275,342	564,081

（注）営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産のみであるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## (3) 主要な顧客ごとの情報

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

顧客の名称又は氏名	営業収益(千円)	関連するセグメント名
SHINBI Japan Equity Long Short Fund	88,935	-
TAIKI Japan Equity Long Short Fund	38,605	-

委託者報酬については、委託者報酬を最終的に負担する受益者は不特定多数であるため、記載を省略しております。

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

顧客の名称又は氏名	営業収益(千円)	関連するセグメント名
SHINBI Japan Equity Long Short Fund	168,311	-
TAIKI Japan Equity Long Short Fund	63,876	-

委託者報酬については、委託者報酬を最終的に負担する受益者は不特定多数であるため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報  
該当事項はありません。
4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報  
該当事項はありません。
5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報  
該当事項はありません。

## （関連当事者情報）

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 関連当事者との取引  
兄弟会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
主要株主の子会社	日産証券株式会社（ユニコムグループホールディングス㈱の子会社）	東京都中央区	1,500,000	証券業	-	投資信託の販売	支払手数料（注）1	9,438	未払手数料	2,573

（注） 上記の取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。  
取引条件及び取引条件の決定方針等  
一般取引条件と同様に決定しております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成29年4月1日至 平成30年3月31日）

1. 関連当事者との取引  
兄弟会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
主要株主の子会社	日産証券株式会社（ユニコムグループホールディングス㈱の子会社）	東京都中央区	1,500,000	証券業	-	投資信託の販売	支払手数料（注）1	16,233	未払手数料	5,078

（注） 上記の取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。  
取引条件及び取引条件の決定方針等  
一般取引条件と同様に決定しております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。



## （ 1株当たり情報 ）

	前事業年度 （自 平成28年4月 1日 至 平成29年3月31日）	当事業年度 （自 平成29年4月 1日 至 平成30年3月31日）
1株当たり純資産	18,740.52円	32,268.29円
1株当たり当期純利益金額	4,225.78円	13,527.80円

（注） 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であるため期中平均株価が把握できませんので、記載しておりません。

1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 （自 平成28年4月 1日 至 平成29年3月31日）	当事業年度 （自 平成29年4月 1日 至 平成30年3月31日）
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益（千円）	24,425	78,190
普通株主に帰属しない金額（千円）		
普通株式に係る当期純利益（千円）	24,425	78,190
普通株式の期中平均株式数（株）	5,780	5,780

## （重要な後発事象）

## 当社の役職員に対するストック・オプション（新株予約権）の発行について

当社は、平成29年6月9日開催の当社第8回定時株主総会の決議に基づき、平成30年5月15日付の取締役会において、当社の取締役及び従業員に対するストック・オプションとしての新株予約権の募集事項を決定し、当該新株予約権の割当てを受ける者等につき、以下の決議をいたしました。

1. 新株予約権の名称                      ファイブスター投信投資顧問株式会社第7回新株予約権
2. 新株予約権の割当ての対象者及び人数  
    当社取締役    3名  
    当社従業員    5名
3. 新株予約権の総数(個)                500個
4. 新株予約権の割当日                 平成30年5月31日
5. 新株予約権の目的たる株式の種類及び数又はその算定方法

新株予約権の目的である株式の種類及び数は、当社普通株式500株とし、新株予約権1個当たりの目的である株式の数(以下「付与株式数」という。)は1株とする。ただし、新株予約権を割り当てる日(以下「割当日」という。)後、当社が当社普通株式につき株式分割(普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)又は株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整し、調整による1株未満の端数は切り捨てる。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、上記のほか、割当日後、付与株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じた場合、合理的な範囲で付与株式数を調整する。

6. 新株予約権の払込金額

無償

7. 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額又はその算定方法

新株予約権1個当たりの行使に際して出資される財産の価額は、新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式1株当たりの払込金額(以下「行使価額」という。)に付与株式数を乗じた金額とする。

行使価額は、金50,000円とする。

なお、割当日後、当社が当社普通株式につき株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、当社が時価を下回る価額で、当社普通株式につき新株式の発行又は自己株式の処分を行う場合(会社法第194条の規定(単元未満株主による単元未満株式売渡請求)に基づく自己株式の売渡し、当社普通株式に転換される証券若しくは転換できる証券の転換又は当社普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む)の行使による場合を除く)を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において、「既発行株式数」とは、当社の発行済普通株式総数から当社が保有する普通株式に係る自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」と読み替えるものとする。

さらに、上記のほか、行使価額の調整を必要とするやむを得ない事由が生じた場合には、当社は合理的な範囲で適切に行使価額を調整する。

8. 新株予約権を行使することができる期間

平成32年6月1日から平成40年5月15日までの間(以下「行使期間」という。)とする。但し、行使期間の最終日が当社の休日にあたるときはその前営業日を最終日とする。

9. 新株予約権の行使の条件

新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役又は従業員のいずれかの地位を有することを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他新株予約権者の退任又は退職後の権利行使につき正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りでない。

新株予約権者が死亡した場合、新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めないものとする。

新株予約権者は、その割当数の一部又は全部を行使することができる。

ただし、新株予約権の1個未満の行使はできないものとする。

10. 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項の規定に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

11. 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要する。

## 中間財務諸表

## 中間貸借対照表

(単位：千円)

		当中間会計期間末 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		137,656
前払費用		1,169
未収運用受託報酬		15,451
未収投資助言報酬		2,656
未収委託者報酬		69,284
立替金		13,446
1年内回収予定の役員に対する長期貸付金		1,056
その他		2
流動資産合計		240,722
固定資産		
有形固定資産		
建物	*1	1,401
器具備品	*1	1,159
その他		447
有形固定資産合計		3,007
無形固定資産		
ソフトウェア		3,241
無形固定資産合計		3,241
投資その他の資産		
投資有価証券		993
役員に対する長期貸付金		8,422
繰延税金資産		28,501
差入保証金		4,755
投資その他の資産合計		42,672
固定資産合計		48,921
資産合計		289,643
負債の部		
流動負債		
預り金		2,694
未払手数料		33,529
未払費用		14,084
未払法人税等		2,876
未払消費税等		2,392
賞与引当金		8,027
その他		8,912
流動負債合計		72,518
負債合計		72,518
純資産の部		
株主資本		
資本金		211,750
資本剰余金		
資本準備金		74,750
資本剰余金合計		74,750
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		69,367
利益剰余金合計		69,367
株主資本合計		217,132
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		6
評価・換算差額等合計		6
純資産合計		217,125
負債・純資産合計		289,643

## 中間損益計算書

（単位：千円）

	当中間会計期間 （自 平成30年4月 1日 至 平成30年9月30日）	
営業収益		
運用受託報酬		72,077
投資助言報酬		6,359
委託者報酬		143,853
営業収益合計		222,290
営業費用		
支払手数料		71,101
広告宣伝費		78
調査費		24,912
委託調査費		8,380
調査費		16,531
営業雑経費		2,351
通信費		1,086
協会費		1,093
諸会費		171
営業費用合計		98,444
一般管理費		
給料		79,653
役員報酬		25,592
給与手当		46,034
賞与引当金繰入額		8,027
福利厚生費		8,039
交際費		1,287
旅費交通費		3,749
租税公課		1,760
不動産賃借料		3,803
固定資産減価償却費	*1	1,347
諸経費		10,842
一般管理費合計		110,484
営業利益		13,361
営業外収益		84
経常利益		13,445
税引前中間純利益		13,445
法人税、住民税及び事業税		1,442
法人税等調整額		18,618
中間純利益		30,621

## 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本					株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	211,750	74,750	74,750	99,989	99,989	186,510
当中間期変動額						
中間純利益				30,621	30,621	30,621
株主資本以外の項目の当中間 期変動額（純額）						
当中間期変動額合計				30,621	30,621	30,621
当中間期末残高	211,750	74,750	74,750	69,367	69,367	217,132

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証 券評価差額金	評価・換算差 額等合計	
当期首残高	0	0	186,510
当中間期変動額			
中間純利益			30,621
株主資本以外の項目の当中間 期変動額（純額）	6	6	6
当中間期変動額合計	6	6	30,614
当中間期末残高	6	6	217,125

## 注記事項

## 重要な会計方針

項 目	当中間会計期間 (自平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
2. 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、平成28年4月以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は下記のとおりであります。 建物 8年～15年 器具備品 4年～10年 (2) 無形固定資産 自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。 (3) 長期前払費用 定額法を採用しております。
3. 引当金の計上基準	(1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。 (2) 賞与引当金 従業員の賞与の支給に備えるため、将来の支給見込み額のうち中間会計期間負担額を計上しております。
4. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

（表示方法の変更）

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を当中間会計期間の期首から適用し、前事業年度の貸借対照表において「流動資産」の区分に表示していた「繰延税金資産」（前事業年度9,882千円）は、当中間会計期間より「投資その他の資産」の区分に表示する方法に変更しました。

（中間貸借対照表関係）

当中間会計期間末 （平成30年9月30日）	
*1 有形固定資産の減価償却累計額は、次の通りであります。	
建物	1,297千円
器具備品	2,397千円

（中間損益計算書関係）

当中間会計期間 （自 平成30年4月 1日 至 平成30年9月30日）	
*1 固定資産の減価償却実施額は、次の通りであります。	
有形固定資産	280千円
無形固定資産	884千円

（中間株主資本等変動計算書関係）

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式（株）	5,780			5,780

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数（株）			当中間会計期間末 間末残高 （千円）
		当事業年度期首	増加	減少	
ストック・オプションとしての第2回新株予約権					
ストック・オプションとしての第3回新株予約権					
ストック・オプションとしての第4回新株予約権					
ストック・オプションとしての第5回新株予約権					
ストック・オプションとしての第6回新株予約権					
ストック・オプションとしての第7回新株予約権					

（注）第6回及び第7回新株予約権は、権利行使期間の初日が到来していません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

（リース取引関係）

該当事項はありません。



## （金融商品関係）

当中間会計期間（自平成30年4月1日 至平成30年9月30日）

金融商品の時価等に関する事項

平成30年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、含まれておりません。（（注2）参照）

	中間貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	137,656	137,656	
(2) 未収運用受託報酬	15,451	15,451	
(3) 未収投資助言報酬	2,656	2,656	
(4) 未収委託者報酬	69,284	69,284	
(5) 立替金	13,446	13,446	
(6) 役員に対する長期貸付金（1年内回収予定を含む。）	9,478	9,481	3
(7) 投資有価証券 その他有価証券	993	993	
資産計	248,966	248,969	3
(1) 未払手数料	(33,529)	(33,529)	
(2) 未払費用	(14,084)	(14,084)	
負債計	(47,614)	(47,614)	

（\*）負債に計上されているものは、（ ）で示しています。

## （注1）金融商品の時価の算定並びに有価証券に関する事項

## 資産

(1) 現金及び預金、(2) 未収運用受託報酬、(3) 未収投資助言報酬、(4) 未収委託者報酬、(5) 立替金  
これらは短期で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6) 役員に対する長期貸付金（1年内回収予定を含む。）

元利金の合計額を同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。

(7) 投資有価証券

証券投資信託の時価は、決算日における基準価額によっております。

## 負債

(1) 未払手数料および(2)未払費用

これらは短期で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## （注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	中間貸借対照表計上額（千円）
(1) 差入保証金	4,755

市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、時価開示の対象としておりません。

## （有価証券関係）

当中間会計期間（自平成30年4月1日 至平成30年9月30日）

## 1. その他有価証券

	種類	中間貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	-	-	-

中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	993	1,000	6
	小計	993	1,000	6
合計		993	1,000	6

2. 売却したその他有価証券  
該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)  
該当事項はありません。

(ストック・オプション関係)

1. スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

2. 当中間会計期間（自平成30年4月1日 至平成30年9月30日）に付与したストック・オプションの内容

	第7回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 3名 当社従業員 5名
株式の種類及び付与数（株）	普通株式500株
付与日	平成30年5月31日
権利確定条件	（注）
対象勤務期間	自 平成30年5月31日 至 平成32年5月31日
権利行使期間	自 平成32年6月 1日 至 平成40年5月15日
権利行使価額（円）	50,000円
付与日における公正な評価単価（円）	

(注) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役又は従業員のいずれかの地位を有することを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他新株予約権者の退任又は退職後の権利行使につき正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。

新株予約権者が死亡した場合、新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めないものとする。

新株予約権者は、その割当数の一部又は全部を行使することができる。ただし、新株予約権の1個未満の行使はできないものとする。

## （セグメント情報等）

## セグメント情報

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

当社の事業セグメントは、アセットマネジメント事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 関連情報

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

（単位：千円）

日本	欧州	その他	合計
143,853	78,436	-	222,290

（注）営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産のみであるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	営業収益(千円)	関連するセグメント名
SHINBI Japan Equity Long Short Fund	36,904	-
TAIKI Japan Equity Long Short Fund	24,108	-

委託者報酬については、委託者報酬を最終的に負担する受益者は不特定多数であるため、記載を省略しております。

## 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

該当事項はありません。

## 報告セグメントごとののれん償却額及び未償却残高に関する情報

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

該当事項はありません。

## 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

当中間会計期間 （自 平成30年4月 1日 至 平成30年9月 30日）	
1株当たり純資産額	37,565円03銭
1株当たり中間純利益金額	5,297円88銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株あたり中間純利益金額については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であるため期中平均株価が把握できませんので、記載しておりません。
2. 当中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）における1株当たり中間純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

中間損益計算書上の中間純利益	30,621千円
普通株式に係る中間純利益	30,621千円
普通株式に帰属しない金額の内訳	該当事項はありません。
普通株式の期中平均株式数	5,780株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権6種類 (新株予約権の数2,340個)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

#### 4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- (2) 運用財産相互間において取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- (3) 通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下（4）、（5）において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行なうこと。
- (4) 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行なう投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと。
- (5) 上記（3）、（4）に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

#### 5【その他】

##### (1) 定款の変更

2018年6月15日付で、定款について次の変更を行いました。

- ・ 目的事項の変更（第二種金融商品取引業に係る業務を追加）

##### (2) 訴訟事件その他の重要事項

委託会社に重要な影響を与えた事実、または与えると予想される訴訟事件などは発生していません。

## 第2【その他の関係法人の概況】

### 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

#### (1) 受託会社

名 称	資本金の額 (2018年9月末現在)	事業の内容
三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

#### <再信託受託会社の概要>

名称 : 日本マスタートラスト信託銀行株式会社

資本金の額 : 10,000百万円(2018年9月末現在)

事業の内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的 : 原信託契約にかかる信託業務の一部(信託財産の管理)を原信託受託者から再信託受託者(日本マスタートラスト信託銀行株式会社)へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託者へ移管することを目的とします。

#### (2) 販売会社

名 称	資本金の額 (2018年9月末現在)	事業の内容
株式会社SBI証券	48,323百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
SMB C日興証券株式会社	10,000百万円	
楽天証券株式会社	7,495百万円	

### 2【関係業務の概要】

#### (1) 受託会社

ファンドの信託財産に属する有価証券の管理・計算事務などを行いません。

#### (2) 販売会社

日本におけるファンドの募集、解約、収益分配金および償還金の取扱いなどを行いません。

### 3【資本関係】

#### (1) 受託会社

該当事項はありません。

#### (2) 販売会社

該当事項はありません。

### 第3【その他】

- (1) 目論見書の別称として「投資信託説明書（交付目論見書）」または「投資信託説明書（請求目論見書）」という名称を使用します。
- (2) 目論見書の表紙、表紙裏または裏表紙に、以下を記載することがあります。
  - 委託会社の金融商品取引業者登録番号および設立年月日
  - ファンドの基本的性格など
  - 委託会社およびファンドのロゴ・マークや図案など
  - 委託会社のホームページや携帯電話サイトのご案内など
  - 目論見書の使用開始日
- (3) 目論見書の表紙または表紙裏に、以下の趣旨の文章の全部または一部を記載することがあります。
  - 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではない旨。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはならない旨の記載。
  - 投資信託は、元金および利回りが保証されているものではない旨の記載。
  - 投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託を購入されたお客様が負う旨の記載。
  - 「金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書である。」旨の記載。
  - 「ご購入に際しては、目論見書の内容を十分にお読みください。」という趣旨の記載。
  - 請求目論見書の入手方法（ホームページで閲覧、ダウンロードできるなど）についての記載。
  - 請求目論見書は投資者の請求により販売会社から交付される旨および当該請求を行なった場合にはその旨の記録をしておくべきである旨の記載。
  - 「約款が請求目論見書に掲載されている。」旨の記載。
  - 商品内容に関して重大な変更を行なう場合には、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき事前に受益者の意向を確認する旨の記載。
  - 投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨の記載。
  - 有価証券届出書の効力発生およびその確認方法に関する記載。
  - 委託会社の情報として記載することが望ましい事項と判断する事項がある場合は、当該事項の記載。
- (4) 交付目論見書の投資リスクに、以下の趣旨の文章の全部または一部を記載することがあります。
  - ファンドの取引に関して、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用がない旨の記載。
  - 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではない旨。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはならない旨の記載。
- (5) 有価証券届出書本文「第一部 証券情報」、「第二部 ファンド情報」に記載の内容について、投資者の理解を助けるため、当該内容を説明した図表などを付加して目論見書の当該内容に関連する箇所に記載することがあります。
- (6) 目論見書に約款を掲載し、有価証券届出書本文「第二部 ファンド情報」中「第1 ファンドの状況」「2 投資方針」の詳細な内容につきましては、当該約款を参照する旨を記載することで、目論見書の内容の記載とすることがあります。
- (7) 投信評価機関、投信評価会社などによる評価を取得・使用する場合があります。
- (8) 目論見書は電子媒体などとして使用されるほか、インターネットなどに掲載されることがあります。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年6月14日

ファイブスター投信投資顧問株式会社  
取締役会 御中

### イデア監査法人

指定社員

業務執行社員

公認会計士 立野 晴朗

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているファイブスター投信投資顧問株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第9期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ファイブスター投信投資顧問株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成30年5月15日開催の取締役会において、第7回新株予約権の発行について決議している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。



## 独立監査人の監査報告書

平成30年8月21日

ファイブスター投信投資顧問株式会社  
取締役会 御中

### イデア監査法人

指定社員

公認会計士 立野 晴 朗

業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・安定型の平成29年6月1日から平成30年5月31日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・安定型の平成30年5月31日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

ファイブスター投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年8月21日

ファイブスター投信投資顧問株式会社  
取締役会 御中

イデア監査法人

指定社員

公認会計士 立野 晴 朗

業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・バランス型の平成29年6月1日から平成30年5月31日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・バランス型の平成30年5月31日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

ファイブスター投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年8月21日

ファイブスター投信投資顧問株式会社  
取締役会 御中

### イデア監査法人

指定社員

公認会計士 立野 晴 朗

業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・積極型の平成29年6月1日から平成30年5月31日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・積極型の平成30年5月31日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

ファイブスター投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の中間監査報告書

平成30年12月12日

ファイブスター投信投資顧問株式会社  
取締役会 御中

### イデア監査法人

指定社員 公認会計士 立野 晴朗  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているファイブスター投信投資顧問株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第10期事業年度の中間会計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

### 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ファイブスター投信投資顧問株式会社の平成30年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。  
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の中間監査報告書

平成31年2月25日

ファイブスター投信投資顧問株式会社  
取締役会 御中

## イデア監査法人

指定社員

公認会計士 立野 晴 朗

業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・安定型の平成30年6月1日から平成30年11月30日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

## 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・安定型の平成30年11月30日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成30年6月1日から平成30年11月30日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 利害関係

ファイブスター投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1. 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。



独立監査人の中間監査報告書

平成31年2月25日

ファイブスター投信投資顧問株式会社  
取締役会 御中

## イデア監査法人

指定社員

公認会計士 立野 晴 朗

業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・バランス型の平成30年6月1日から平成30年11月30日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

## 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・バランス型の平成30年11月30日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成30年6月1日から平成30年11月30日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 利害関係

ファイブスター投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1.上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

平成31年2月25日

ファイブスター投信投資顧問株式会社  
取締役会 御中

## イデア監査法人

指定社員

公認会計士 立野 晴 朗

業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・積極型の平成30年6月1日から平成30年11月30日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

## 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ユナイテッド・タートルクラブ・ファンド・積極型の平成30年11月30日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成30年6月1日から平成30年11月30日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 利害関係

ファイブスター投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1. 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。



